

INFOS

日仏整形外科学会広報誌 アンフォ

■会長……………金子 和夫 Président ——— K. KANEKO	■副会長……………大橋 弘嗣 Vice-Président ——— H. OHASHI	■書記長……………本間 康弘 Secrétaire général ——— Y. HONMA
■会計……………青木 清 Trésorier ——— K. AOKI	■書記……………安藤 厚生 Secrétaire ——— K. ANDO	
■幹事……………飯田 哲 Membre exécutif — S. IIDA	今井 晋二 S. IMAI	大鳥 精司 S. Ootori
	田中 康仁 Y. TANAKA	藤原 憲太 K. FUJIWARA
		星 忠行 T. HOSHI
■名誉会員……………小林 晶 Membre d'honneur — A. KOBAYASHI	瀬本 喜啓 Y. SEMOTO	

■事務局：〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町 滋賀医科大学整形外科学講座（今井 晋二）
Tel. (077) 548-2252 Fax. (077) 548-2254
Bureau : Maison d'édition: Dept. of Orthopaedic Surgery, Shiga University of Medical Science, Tsukinowa-cho Seta, Otsu, Shiga 520-2192 JAPON

■発行所：〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町 滋賀医科大学整形外科学講座（編集者：安藤 厚生）
Tel. (077) 548-2252 Fax. (077) 548-2254
Maison d'édition: Dept. of Orthopaedic Surgery, Shiga University of Medical Science, Tsukinowa-cho Seta, Otsu, Shiga 520-2192 JAPON (Éditeur : K. ANDO)

■ホームページアドレス：http://www.sofjo.gr.jp



目 次

【巻頭言】	金 子 和 夫	1
【第16回日仏整形外科合同会議報告】	田 中 康 仁	7
【第16回日仏整形外科合同会議・プログラム】		11
【寄稿】		
MASQUELET 先生との出会い	金 子 和 夫	17
【追悼 小野村敏信先生】		
小野村先生の思い出	藤 原 憲 太	21
【追悼 坂巻豊教先生】		
坂巻先生を偲んで	西 脇 徹	27
【ホームページ新コーナーのお知らせ】		
La société française à travers le travail et les congés. 仕事と休暇からみたフランス人社会	Bogdan PROPECK	29
「人は乾杯の数だけ幸せになれる！」泡の魅力を横浜やシャンパーニュで togetherに体感しましょう！	青 木 清	35
【新幹事のご紹介】		
日仏整形外科学 (SOFJO) の幹事を拝命して	大 鳥 精 司	38
幹事就任のご挨拶	松 峯 昭 彦	38
【日本側・フランス側役員の紹介】		39
【AFJO・SOFJO開催一覧】		40
【募集要項(あなたもフランス研修に!)】		41
【フランス人整形外科医受け入れのお願い】		42
【第20回日仏整形外科学会 開催のご案内】	柁 原 俊 久	43
【第17回日仏整形外科合同会議 開催のご案内】	安 藤 厚 生	44
【学会各種ご案内・お知らせ】		45
【編集後記】	安 藤 厚 生	48

2022年のフランス滞在でのトピックスから始めます。

順天堂大学医学部整形外科 名誉教授・特任教授 金子 和 夫

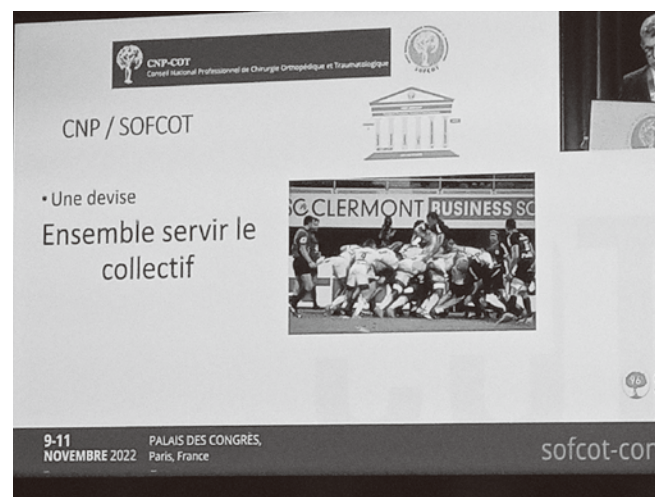
フランス整形災害外科学会(SOFCOT)

SOFCOTには開会式を含めて(図1)3日間すべて参加した。教育研修講演ではステム無しの人工肩関節置換を聞いた。演者は70歳を越えた現在も、多くの肩関節手術を手掛けている(図2)。Reverse Shoulderを生

んだ国だけに、ステム無しの人工肩関節置換術の講演は満席で、実り多い内容だった(図3)。ステム式の置換のデメリットやステム無しへの再置換についても大変参考になった(図4,5)。今後日本でも普及してほしい機種であると痛感した。

また、第一会場で行われた骨盤骨折後のTHAのシンポジウム(図6)はフランス本土だけでなく、海外県のカリブ海のFort-de-Franceなども含めた28施設578関節に関する報告で(図7)、1962年のLETOURNEL

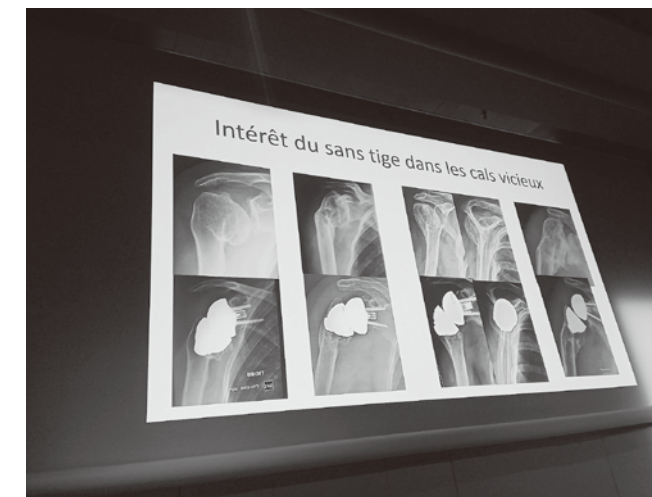
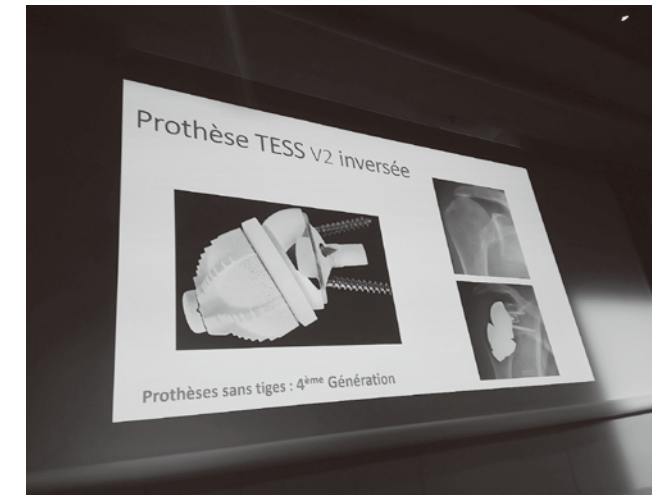
のTHA回避から、大きく治療の選択肢として転換期にあると感じた(図8)。LETOURNELに直接学んだ藤原正利先生の骨盤骨切り症例を提示します(図9)。



●図1 第96回SOFCOT開会式MASSIN教授とClermont-Ferrandラグビーチームの宣伝



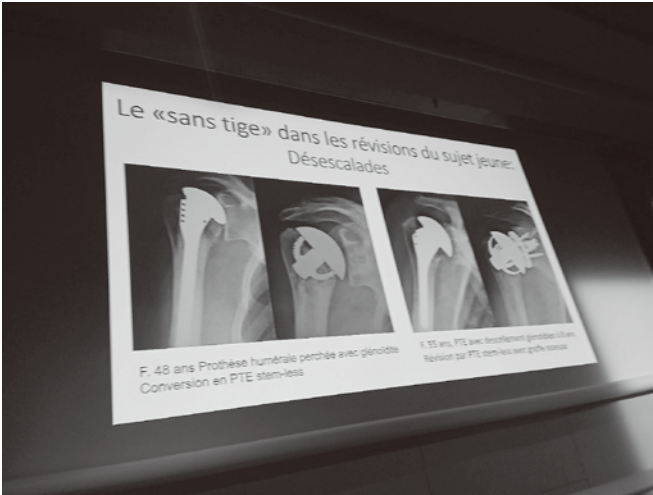
●図2 Montpellier大学で70歳を過ぎた現在も肩関節外科を務める Jacques TEISSIER先生



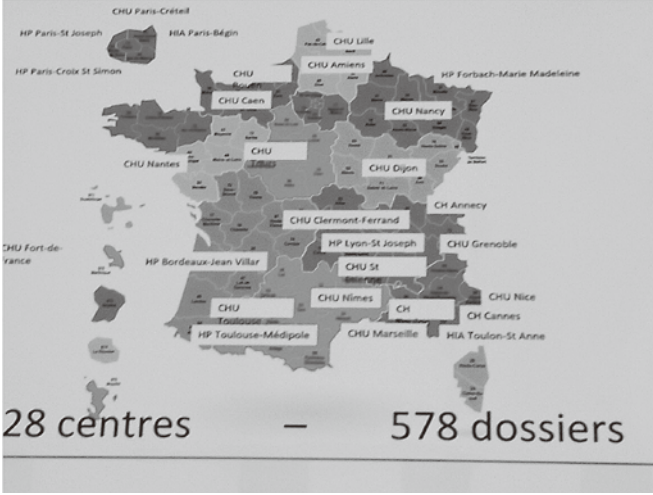
●図3 Reverse型表面置換型肩関節置換術



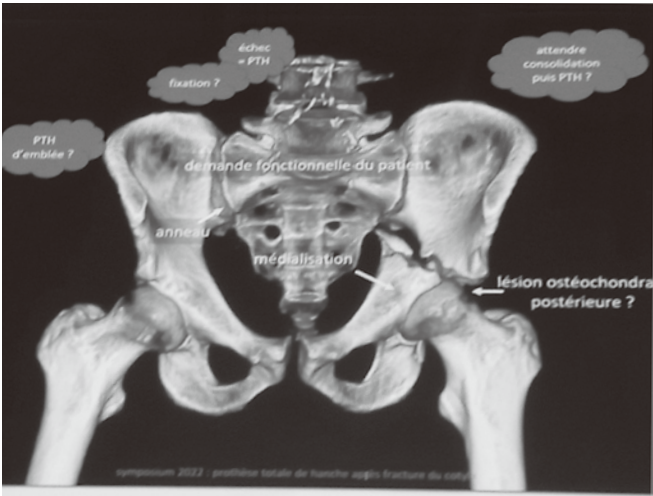
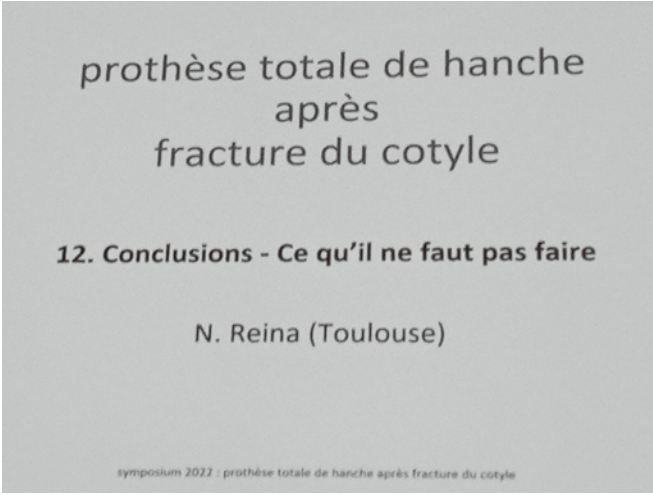
●図4 肩関節全置換合併症を回避可能な症例提示



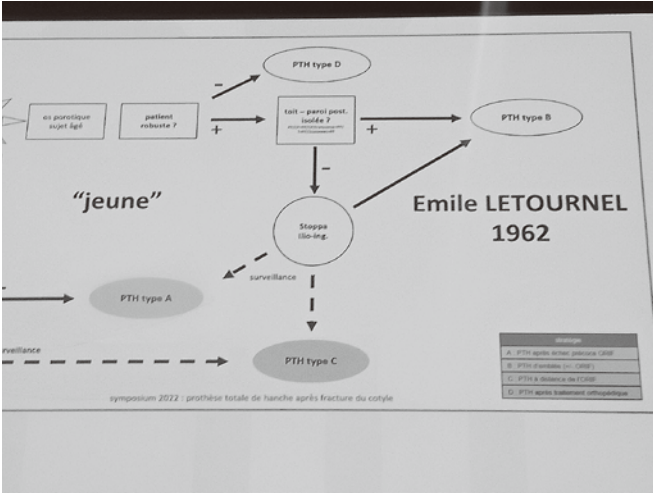
●図5 通常型全置換術からステムなしへ再置換



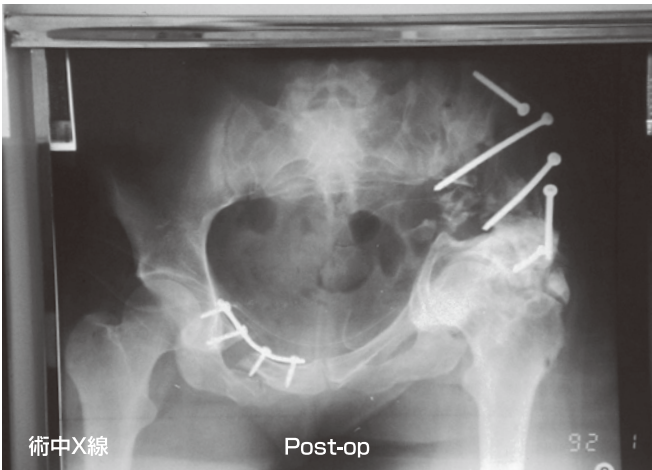
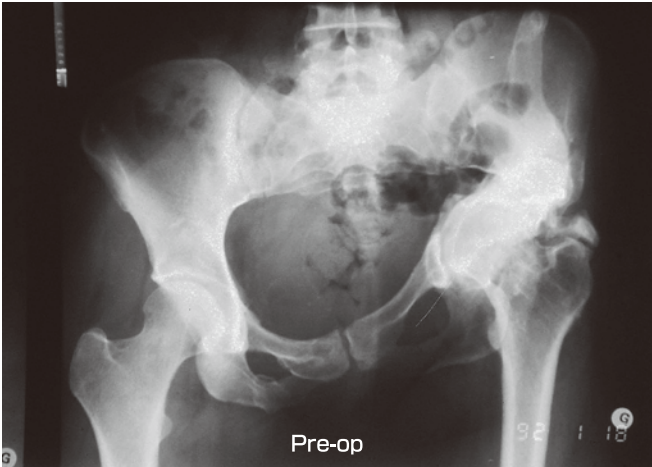
●図7 28施設578症例についてのシンポジウム



●図6 骨盤骨折後のTHAシンポジウム



●図8 1962年のLETOURNELからTHAへの提言



●図9 1986年受傷1996年手術 骨盤骨折陳旧例(藤原正利先生より)

美術館めぐり(ルイ15世展:ベルサイユ宮殿やルーブル美術館)

ルイ15世MUSEUM展が開催中の事を、偶然テレビで知った(図10)。ルイ15世生誕300年で、未公開の物品を含めたexpositionがベルサイユ宮殿美術館で開かれていて(図11)、早速、予約も可能なPARIS MUSEUM PASSを購入した(図12)。このチケットはルーブル美術館などの予約も可能、煩雑な手続きも不要、と大変便利である。ちなみに購入した96時間チケットは、印象派女流画家ベルト・モリゾの肖像画だ。印象派巨匠エドゥワール・マネの作品(1872)でオルセー美術館所蔵。展示は私物の時計や動物のモチーフなど多岐にわたる(図13)。目を引いたのが、ルイ15世お気に入りの地球儀に内蔵された時計であり、圧巻であった(図14)。



●図10 偶然テレビでHelene DELALEX(ベルサイユ遺産学芸員・ソルボンヌ大学講師)がルイ15世展について紹介していた。



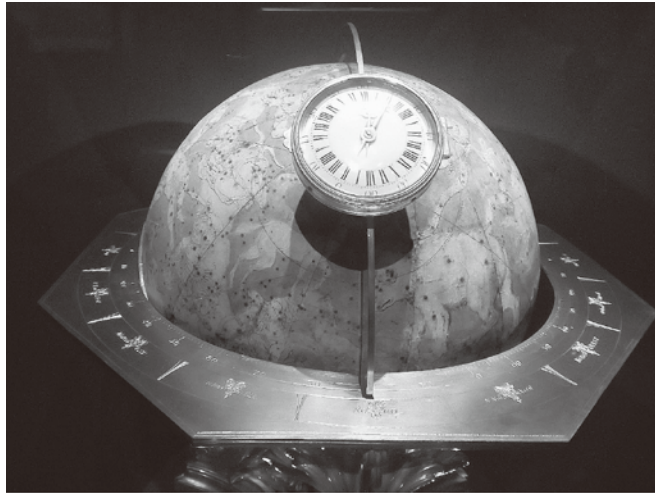
●図11 300年の歴史を展示するルイ15世展



●図12 PARIS MUSEUM PASSは大変便利なチケット:2日間・4日間・6日間あり



●図13 時計や犬のモチーフ



●図14 ルイ15世お気に入りの時計

ラグビーワールドカップ2023 フランス大会セレモニー

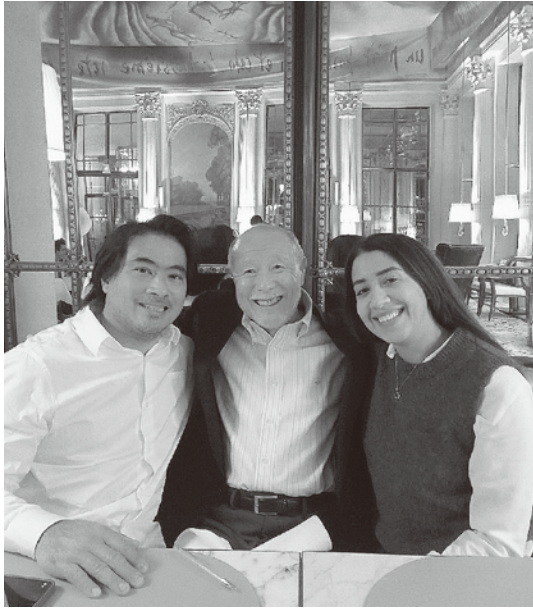
パリ市内散歩中に必ず訪れるパリ市庁舎ではイベントが多い。偶然が重なるが、この日も喧騒の中、ラグビーワールドカップ2023のセレモニーが市庁舎前の広場で開催されていた(図15)。参加各国や開催都市の紹介など、好天のセーヌ右岸に多数の参加者を迎えていた。



●図15 パリ市庁舎前でのワールドカップ2023フランス大会のセレモニー

最後に、2022年4月のAFJO奈良に唯一フランスから来日してくれた、新幹事のTakaakira KISHI先生と現奥様の紹介をして(図16) 巻頭言を締めます。

岸先生には、師匠のMASQUELET教授と、今年の日本骨折治療学会で表面置換型人工肩関節術の講演をしていただく予定で、皆様の多くのご参加をお願いいたします。



●図16 新幹事の岸先生と新妻(Le Meuriceホテル内のレストラン・ダリにて)

第16回日仏整形外科合同会議報告

第16回日仏整形外科合同会議 (AFJO) ・ご報告

奈良県立医科大学整形外科 田 中 康 仁

桜満開の奈良にて第16回日仏整形外科合同会議を開催させていただきました。会期は2022年4月4日～6日で、奈良公園内の奈良春日野国際フォーラム“麓”の能楽ホールを主会場とし合計3つの会場を使用させていただきました。コロナ禍で開催を1年延期させていただき完全現地開催を目指しておりましたが、オミク

ロン株による第6波が到来し、外国人の入国を制限されてしまいました。フランスの先生方も最後まで来日を画策してくださいましたが、許可が下りることはありませんでした。そのため日本とフランスの時差が7時間であることを利用して、学会当日の午後の日本と朝のフランスをZoomで繋ぎ、ハイブリッドで開催する

ことにいたしました。日本の先生方は多くが現地にお越しくださり、久しぶりに対面で親睦を深め、学会を大いに楽しんでいただけたと自負いたしております。

今回は日仏合わせて合計50題の演題を発表いただくことができました。大変ありがとうございました。この場をお借りいたしまして、ご参加の先生方に心から

御礼申し上げます。学会は4月4日の午後から開始し、私が開会のご挨拶をさせていただいた後に、SOFJO・AFJO会長の金子和夫先生にPresidential addressとしてPremières rencontres internationales de la chirurgie francophone-Académie Nationale de Chirurgieのご報告をいただきました。また、田中千晶先生にご



●図1 学会ポスター



●図3 開会あいさつ



●図5 会長招宴(奈良ホテル) 金子先生による乾杯のご発声



●図7 第二日／招待講演 股関節



●図2 第一日／第1会場でのZoom(後方スクリーン)で繋がれたフランスの先生方との役員会



●図4 Prof. Marcel Kerboull Memorial Symposium



●図6 会長招宴 金子先生と今井先生とともに



●図8 日仏フェローの報告会

企画いただいたProf. Marcel Kerboul Memorial Symposiumのセッションでは、大橋弘嗣先生とお二人で司会していただきまして、まずは田中千晶先生が自ら“Professor Marcel Kerboul – My Master of Total Hip Arthroplasty”と題してご講演していただきました。さらにPascal Vie先生、牧田浩行先生、石井政次先生、おおえ賢一先生、柁原俊久先生とKerboul先生のゆかりの先生方からお話をいただき、最後にご子息のLuc Kerboul先生から“My Father was a Master”という題でご講演をいただき、偉大な功績を振り返っていただきました。その後同会場にて役員会を開催させていただきました。



●図9 全員懇親会（奈良国立博物館）

一般講演は主に2日目と3日目の午前中に発表いただき、2日目の午後は招待講演に充てました。招待講演は2名の先生方に30分ずつ講演いただき、4セッションをもうけました。股関節は本間康弘先生とPhilippe Hernigou先生、肩関節は菅谷啓之先生と来日していただけたTakaakira Kishi先生、手は面川庄平先生とMichel Levadoux先生、足は寺本司先生とGuillaume Kerousse先生に素晴らしいご講演をいただきました。

ソーシャルイベントとしては、1日目の夜に奈良ホテルにて着席で会長招宴を開催させていただきました。感染対策に気を付けながら、AFJOらしくフランス料理にシャンパン、ワインをお楽しみいただきました。



●図11 第三日／桜咲く中ウォーキングツアー 奈良公園

た。水野直子先生のご主人のフランス人のBogdan様にも会を盛り上げていただき、当教室の内原好信のサックス演奏をお楽しみいただきました。2日目の夜は全員懇親会を奈良国立博物館の地下で開催させていただきました。シャンパンとワインを持ち込み春爛漫の奈良の夜をお楽しみいただきました。さらに3日目の学会プログラム終了後は、ウォーキングツアーでは満開の桜の中奈良公園から東大寺、興福寺の国宝館に訪れていただきました。その後KOTOWAにてフェアウエルパーティーを行い、無事大団円を迎えることができました。

今回はコンベンション会社を入れずに、教室の清水



●図13 最終日／猿沢池から興福寺の五重塔

隆昌ならびに長谷川英雄が事務局を担当させていただき、教室手作りの会とさせていただきました。至らない点多々あったこととは存じますが、全力で取り組み、貴重な経験を積むことができ、彼らにとりまして学会運営を学ぶ上で大きな財産となったことと存じます。皆様方の温かなご指導、ご高配に改めまして深謝申し上げます。次回の第17回は2024年にシャンパーニュ地方のランスで開催されることが決まっております。コロナ禍を乗り越え、是非多数のご参加いただきまして、本学会の更なる発展につながりますよう祈念いたしております。



●図14 スタッフ集合写真



●図10 全員懇親会後の2次会(奈良ホテル The Bar)



●図12 東大寺 大仏殿



《4th April, 2022》

Special Lecture: *Presidential address*

Moderator: Yasuhito TANAKA

Report about my participation to the “Premières rencontres internationales de la chirurgie francophone - Académie Nationale de Chirurgie” (First International Meeting for French spoken surgery - National Academy of Surgery), 5-6 November 2021

Kazuo KANEKO
The President of AFJO
Professor emeritus: Juntendo university, Dept. of Orthopedic Surgery

Sessions: *Hip*

Moderators: Satoshi IDA, Toshihisa KAJIWARA

1. Revision surgery for dislocation following total hip arthroplasty

Takashi TOYODA, Kenichi OE, Yosuke OTSUKI, Fumito KOBAYASHI, Shohei SOGAWA, Tomohisa NAKAMURA
Hirokazu IIDA, Takanori SAITO
Department of Orthopaedic Surgery, Kansai Medical University

2. Factors affecting surgical invasion after minimally invasive total hip arthroplasty

Yukino HANDA, Hirotaka NAKANE, Hidejiro KUBOTA, Toru NISHIWAKI
Hip & Arthroplasty Center, Dept. of Orthop. Surg., Shizuoka Red Cross Hosp.

3. Does The Approach Determine The Choice of Stems?

Christian DELAUNAY
Clinique de l’Yvette

Special Lectures: *Memorial session of Professor Marcel Kerboull* *Moderators: Chiaki TANAKA, Hirotugu OHASHI*

1. Professor Marcel Kerboull – My Master of Total Hip Arthroplasty

Chiaki TANAKA
Center for Replacement Arthroplasty, Gakkentoshi Hospital

2. In recognition of Pr. M. K’s purposeful contribution to the development of design of the femoral implant of THA

Pascal VIE
la Clinique Du Cèdre, Rouen

3. What I learned from French orthopaedics is “we should consult the past if we want to learn about the future”

Hiroyuki MAKITA
Department of Orthopaedic Surgery, Kanagawa Prefectural Ashigarakami Hospital

4. Impact on my hip surgery

Masaji ISHII
Saiseikai Yamagata Saisei Hospital

5. Tribute to Professor Marcel Kerboull - Impact on my hip surgery

Kenichi OE
Kansai Medical University

6. My Great Mentors in Cochin Hospital

Toshihisa KAJIWARA
Yokohama Minami-kyosai Hospital, Arthroplasty Center

7. My Father was a Master

Luc KERBOULL
Clinique Arago, Paris Marcel Kerboull Institute, Paris

《5th April, 2022》

Special Lectures: *Invited Lecture [Shoulder]*

Moderators: Shinji IMAI, Naoko MIZUNO

1. Arthroscopic Shoulder Stabilization Update 2022

Hiroyuki SUGAYA
Tokyo Sports & Orthopaedic Clinic

2. Surgeries with wide awake local anesthesia without tourniquet as known as WALANT

Takaakira KISHI
Paris Lilas Clinic

Sessions: *Spine*

Moderators: Takashi FUJISHIRO, Hideki SHIGEMATSU

1. Effects of Balance Exercise Assist Robot (BEAR) in Spinal Cord Injury

Katsuhisa KIKUCHI¹⁾, Ikuko FUSE¹⁾, Satoshi NISHINO¹⁾, Makoto YOSHIOKA²⁾, Hiroshi TAKESHITA²⁾
Munehiro SAKATA²⁾

1) Department of Rehabilitation, Saiseikai Moriyama Municipal Hospital, Shiga
2) Department of Orthopedics, Saiseikai Shiga Hospital, Shiga

2. Flexion-Extension Raneg of Motion Gap: A Novel Indicator for The Kyphotic Change after Cervical Laminoplasty

Takashi FUJISHIRO, Sachio HAYAMA, Takuya OBO, Yoshiharu NAKAYA, Atsushi NAKANO, Yoshitada USAMI
Masashi NEO
Department of Orthopedic Surgery, Osaka Medical and Pharmaceutical University

3. Recurrence of atlantoaxial subluxation after optimal closed reduction of subacute atlantoaxial rotatory fixation

Sachiko KAWASAKI, Hideki SHIGEMATSU, Yuma SUGA, Masaki IKEJIRI, Yasuhito TANAKA
Department of Orthopaedic Surgery, Nara Medical University

4. Medical care under the Covid-19 pandemic from the viewpoint of an orthopedic clinician - Statistical observation -

Hiroharu NAJIMA¹⁾, Nobuoki ESHIMA²⁾, Akira KOBAYASHI¹⁾
1) Najima Orthopedic Clinic
2) Department of Pediatrics and child Health Kurume University School of Medicine

1. Correlation between postoperative rotational alignment and clinical results in JOURNEY II BCS and ATTUNE PS
Tsutomu MAEDA, Mitsuhiro KUBO, Shinji IMAI
Shiga University of Medical Science, Dept. of Orthopaedic Surg.
2. Arthroscopic all-inside meniscal fixation for hypermobile lateral meniscus
Tadayuki HOSHI, Morihiko MASUYA, Fumito KOMATSU, Hiroshi NAKAJIMA, Mitsuru KOMATSU
Komatsu Orthopaedic Clinic
3. Association between obesity and diabetes: Mediation by joint pain and physical impairment
Takahisa OGAWA, Hideaki ISHIBASHI, Tomoyuki ARAI, Ryo NAKAGAWA, Takashi NAKAGAWA
Department of Orthopedics, Tokyo Medical and Dental University
Department of Orthopedics, Ina hospital
Department of Rehabilitation, Saitama Medical University
Omiya City Clinic
4. The treatment with distal tibial oblique osteotomy (DToo) for osteoarthritis of the ankle – indication and surgical procedure –
Yukinobu NISHII¹⁾, Tsukasa TERAMOTO²⁾³⁾, Nobuyuki TAKENAKA²⁾³⁾, Tomohiko ASAHARA²⁾³⁾, Shota HARADA²⁾³⁾
Kazutaka OTSUKA⁴⁾
1) Department of Orthopaedic Surgery, CHIKAMORI Hospital, Kochi, Japan
2) Department of Traumatology, Medical University of Fukushima
3) Trauma Center, Shogo Minami Tohoku Hospital
4) Department of Orthopaedic Surgery, Nagasaki Memorial Hospital
5. The influence of lateral hinge fracture type1 in OWHTO and OWDTO
Shuhei OTSUKI, Kuniaki IKEDA, Yoshinori OKAMOTO, Hitoshi WAKAMA, Masashi NEO
Osaka Medical and Pharmaceutical University
6. The effect of preoperative flexion contracture on the femoral component alignment in unicompartmental knee arthroplasty
Takashi ISHITANI, Shuhei OTSUKI, Yoshinori OKAMOTO, Hitoshi WAKAMA, Masashi NEO
Osaka Medical and Pharmaceutical University
7. Characteristics of hidden blood loss following hybrid total knee arthroplasty
Yoshinori ISHII, Hideo NOGUCHI, Junko SATO, Ikuko TAKAHASHI
Ishii Orthopaedic & Rehabilitation Clinic

1. 簡易ポータブルナビゲーションNaviswiss®を使用したTHA
内原 好信, 齊藤 謙一郎, 岡本 公一, 田中 康仁
奈良県立医科大学 整形外科
2. ショートアナトミカルステムを用いたTHA の術前計画～臨床成績まで
鈴鹿 智章, 織田 一貴, 高松 聖仁
淀川キリスト教病院 整形外科 関節外科クリニック

1. Report of a Japanese Fellowship in France
Momoko KIZAWA
Department of Orthopedic Surgery, Osaka Medical College Mishima Minami Hospital
2. Fellowship in France under COVID-19 Pandemic
Hideo HASEGAWA
Nara Medical University

1. Current trends in wrist and hand arthroscopy in Japan
Shohei OMOKAWA, Kenji KAWAMURA, Yasuaki NAKANISHI, Takamasa SHIMIZU, Mitsuyuki NAGASHIMA
Hideo HASEGAWA, Yasuhito TANAKA
Department of Hand Surgery, Nara Medical University
Department of Orthopedic Surgery, Nara Medical University
2. EWAS TO IWAS20 YEARS OF HISTORY. WHAT AN ADVENTURE
Michel LEVADOUX¹⁾, Christophe MATHOULIN²⁾, Hideo HASEGAWA³⁾
1) Clinique St Roch
2) Clinique Bizet Paris
3) Nara Medical University

- どのタイミングで神経障害性疼痛を伴う腰部脊柱管狭窄症へ手術を考慮すべきか？
- ロコモの観点から
- 重松 英樹¹⁾, 田中 誠人²⁾, 川崎 佐智子¹⁾, 須賀 佑磨¹⁾, 池尻 正樹¹⁾, 田中 康仁¹⁾
1) 奈良県立医科大学 整形外科
2) 大手前病院 整形外科

1. How French Hip Surgery Innovation born: Education・Language・Work style
Yasuhiro HOMMA
Department of Orthopaedic, Faculty of Medicine, Juntendo University
2. History of SICOT: past, present, and future
Philippe HERNIGOU
University of Paris East

1. State of Art: Foot and Ankle Surgery in Japan

Tsukasa TERAMOTO

Department of Traumatology & Reconstruction, Fukushima Medical University, Southern TOHOKU General Hospital, Kouriyama city
Fukushima prefecture
2. State of art: Foot and Ankle Surgery in France. How to manage hallux valgus deformities in France

Guillaume KERHOUSSE

ICPR, CHP Saint-Grégoire-Rennes FRANCE

《6th April, 2022》

1. Case series of pathological fractures associated with pyogenic spondylitis, who were treated conservatively

Kimihiko NAKATA, Takashi TOYODA

Department of Orthopaedic Surgery, Higashi-osaka Hospital
2. Experience of intradiscal condoliase injection for patients with recurrent lumbar disc herniation

Risako YAMAMOTO, Shouzui TAKEMOTO, Shigeo JOJI, Mitsuru MOTOYAMA, Hiroki FUKUI

Department of Orthopedic Surgery, JA Yoshida General Hospital, Hiroshima
3. Surgical treatment of Superior and middle cluneal nerve entrapment neuropathy in our hospital

Ko HIRATA, Takeshi OKI, Kentaro NAKAMURA, Kiyonao YAMAGUCHI, Isao OKI

Department of Orthopaedic Surgery, Yuki hospital, Ibaraki, Japan
4. A comparative study of fusion surgery and decompression surgery for L5 / S1 intraforaminal and extraforaminal disorders

Takeshi OKI, Ko HIRATA, Kentaro NAKAMURA, Kiyonao YAMAGUCHI, Isao OKI

Department of Orthopaedic Surgery, Yuki hospital, Ibaraki, Japan

1. Can eccentric glenosphere help to prevent scapular notching after reverse total shoulder arthroplasty in a three-dimensional computational model?

Naoko MIZUNO, Kota KOIZUMI

Department of orthopaedic surgery, Toyonaka municipal hospital
2. Percentage of Gram-positive bacteria in cemented or cementless periprosthetic hip infections

Yosuke OTSUKI, Kenichi OE, Takashi TOYODA, Fumito KOBAYASHI, Shohei SOGAWA, Tomohisa NAKAMURA

Hirokazu IIDA, Takanori SAITO

Department of Orthopaedic Surgery, Kansai Medical University
3. Peri-prosthetic bone remodeling characteristics in bone mineral density in triple tapered cemented stems

Fumito KOBAYASHI, Kenichi OE, Shohei SOGAWA, Tomohisa NAKAMURA, Hirokazu IIDA, Takanori SAITO

Department of Orthopaedic Surgery Kansai Medical University

4. Two Cases of Total Hip Arthroplasty Using A Reconstruction Cage Device and A Cemented Dual Mobility Cup in Patients with Acetabular Bone Defect

Masakazu OKAMOTO, Yoshinobu UCHIHARA, Kenichiro SAITO, Yusuke INAGAKI, Yasuhito TANAKA

Nara Medical University

5. A case of Gorham-Stout disease with vanishing femur treated with total femur replacement

Sho MASUDA ¹⁾, Hirotsugu OHASHI ¹⁾, Shuji YAMADA ¹⁾, Shingo MAEDA ¹⁾, Tesshu IKAWA ¹⁾, Yoshito MINAMI²⁾

Makoto IEGUCHI ²⁾, Kentaro INUI ¹⁾

1) Department of Orthopedic Surgery, Osaka Saiseikai Nakatsu Hospital

2) Department of Orthopedic Surgery, Fuchu Hospital

6. A novel quantitative method to identify hip flexion contracture in sagittal radiographs

Youngwoo KIM ¹⁾, Claudio VERGARI²⁾, Mitsuru TAKEMOTO ¹⁾, Yu SHIMIZU ¹⁾, Chiaki TANAKA ³⁾, Shunya FUKAE⁴⁾

Shunsuke FUJIBAYASHI⁴⁾, Shuichi MATSUDA ⁴⁾

1) Department of Orthopaedic Surgery, Kyoto City Hospital, Kyoto, Japan

2) Arts et Métiers Institute of Technology, Institut de Biomécanique Humaine Georges Charpak, Université Sorbonne Paris Nord, Paris, France

3) Department of Orthopaedic Surgery, Gakkentoshi Hospital, Kyoto, Japan

4) Department of Orthopaedic Surgery, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan

7. Trochanteric claw plate fixation for greater trochanteric fracture or osteotomy in total hip arthroplasty

Shohei SOGAWA, Kenichi OE, Yosuke OTSUKI, Takashi TOYODA, Fumito KOBAYASHI, Tomohisa NAKAMURA

Hirokazu IIDA, Takanori SAITO

Department of Orthopaedic Surgery, Kansai Medical University

New Normal. 低線量立位3D-X 線診断装置 (EOS)

本間 康弘

順天堂大学医学部整形外科科学講座

EOS 2D/3D imaging solution in scoliosis care management?

Aurélien COURVOISIER

Researcher & Pediatric Orthopaedic Surgeon- Grenoble France

MASQUELET 先生との出会い

順天堂大学医学部整形外科 名誉教授・特任教授 金子 和 夫

2022年のフランス整形災害外科学会 (SOFCOT) で Alain-Charles MASQUELET 教授にお会いし (図1)、2016年の第42回日本骨折治療学会を、懐かしく思い出した。学会にはPhilippe HERNIGOU 教授やご子息のJacques HERNIGOU 先生・AFJO新幹事のTakaakira KISHI 先生にもフランスやベルギーから参加していただいたが、昨日

のこつようだった (図2,3)。

再会したMASQUELET 先生とは、マスクレ法のシンポジウムや日本料理について語り合い、先生がいかに日本を愛しているかを知った。何と、つけているネクタイは葛飾北斎の富嶽三十六景“神奈川冲浪裏”で、とても自慢されていた (図4)。

今年の日本骨折治療学会でも“マスクレ法のシンポジウム”を企画していることを話し、訪日しての学会参加を打診すると、快諾してくださった。

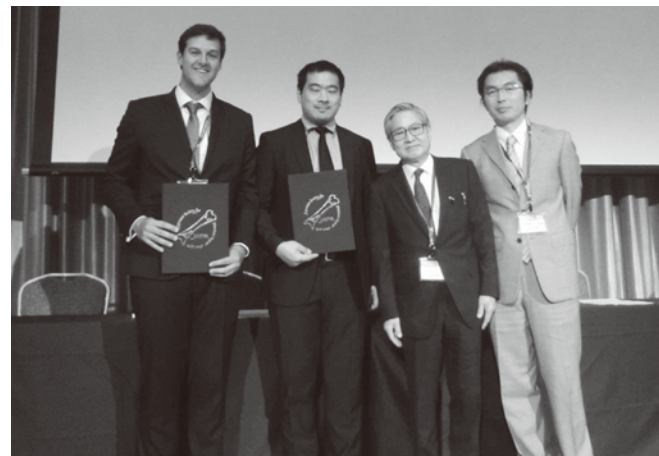
MASQUELET 先生とマイクロサージェリーの思い出

第42回日本骨折治療学会を新宿の京王プラザで担当させていただき、MASQUELET 先生には招待講演をお願いしたが、早いもので7年弱が経った。先生と初めてお会いしたのは留学中の1987年、パリ第6大学主催のマイクロサージェリー (DIPLOME Techniques microchirurgicales) の講義だった。当時から、皮弁形成を用いての難治性骨折に対応されていた (図5)。半年間の講義や実践形式のマイクロサージェリーは、文字通り四肢のみではなく、頸部・腹部・胸部まで体系的に学ぶシステムだった。

当時の日本ではめずらしいマイクロ技術専門のテクニシャンもいて、持針器や糸の把持など、基礎の基礎から教示してもらった (図6)。何度も叱責されたの



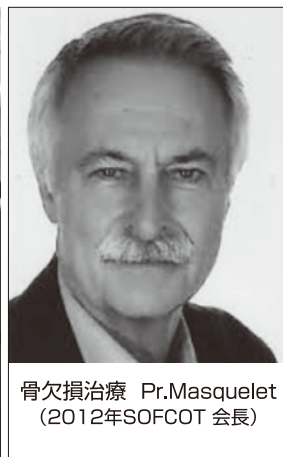
●図1 2022年第96回SOFCOT開会式で偶然MASQUELET 教授と遭遇しました



●図2 第42回日本骨折治療学会フレンチ・コネクション



●図3 第42回日本骨折治療学会 Pr.Masquelet/パリ第6附属Saint-Antoine病院



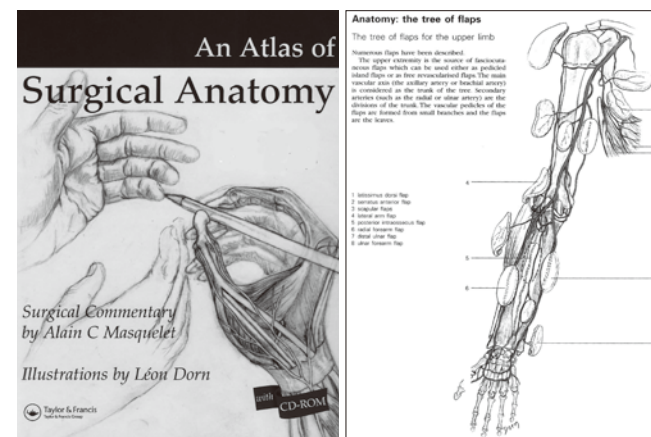
骨欠損治療 Pr.Masquelet
(2012年SOFCOT 会長)



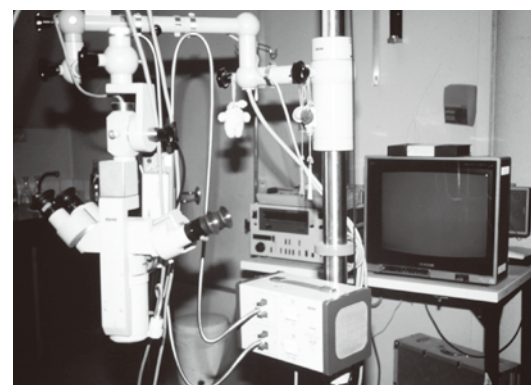
骨髄移植 Pr.Hernigou
(Professeur L'Université Paris X II
2016年SOFCOT 会長)



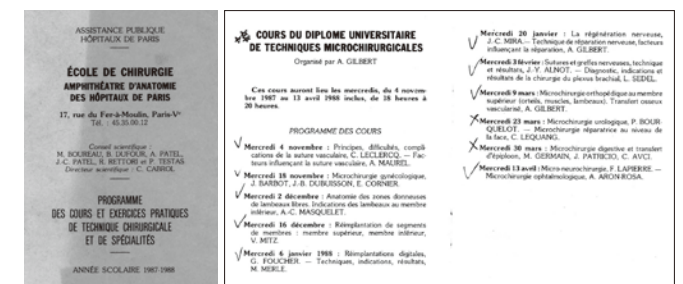
●図4 MASQUELET 先生ご愛用の葛飾北斎図案富嶽三十六景神奈川冲浪裏 日本料理の話で盛上がる



●図5 Surgical Anatomy : Masquelet AC



●図6 Diplôme Universitaire de Microchirurgie (Paris VI)



●図7 Diplôme de Techniques Microchirurgicales (Paris VI PIERRE ET MARIE CURIE)



●図7 Diplôme de Techniques Microchirurgicales (Paris VI PIERRE ET MARIE CURIE)

は、11-0や12-0などの極細の糸をなくして、実験中止を余儀なくされたことだった。

6カ月にわたる授業が終わり、最終試験は筆記10点、面接10点、実技40点の合計60点満点で、36点以上が合格だった。実技試験は①ラットの腎移植、②大腿動脈のバイパス術。私の成績は筆記0点、面接0点、実技36点で、実技のみでかろうじて合格した(図7)。授業も試験も、技術的にかなり難解かつ繊細だった、と35年前の思い出を語ると、MASQUELET先生はcomme la cuisine japonaiseと日本料理のように繊細だと答えた。

ラットの同種腎移植では腎静脈のバリエーションが強く、全員が苦戦していた。合否判定はレシピエント腎の尿管から尿が排出するかどうかだった。3年間のフランス留学中最大のイベントであり、良い思い出だ。同じ研究所(Ecole de Chirurgie：外科学校)では、



●図8 ラットでの実習



●図9 フランス整形災害外科学会 名誉会員授与式 MASQUELET教授

今では当たり前の新鮮屍体を用いた皮弁の講義も盛んで、アメリカのHSSから参加している形成外科医もいた(図8)。

私は2012年のフランス整形災害外科(SOFCOT)で、名誉会員のメダルを授与された。授与式ではJean Pierre COURPIED 教授(日本整形外科学会名誉会員)からメダルを受けたが、右端にMASQUELET先生がいらしたのも縁を感じる(図9)。

MASQUELET先生は2018年のSOFCOT 100年記念で、第一次世界大戦戦勝記念日100年にちなんで戦争における外傷治療の講演をされたが、印象的で感動した。

実際、第42回学会で座長をお願いした松下降教授は、先生が優れた再建外科医であると同時に、倫理的な哲学者でもあると紹介されていた(図10)。学会での略歴の一部には“Ethics and philosophy of medecine and sciences (author or co-author of 6 books on philosophy of medicine)”と記されてある。



●図10 マスクレ先生 招待講演(2016) The induced membrane technique for reconstruction of long bone defect

2023年日本骨折治療学会に参加予定

2021年の第94回日本整形外科学会学術集会では、金沢大学の土屋弘行会長のご英断で日仏整形外科シンポジウムを取り上げていただいたが、COVID禍のため、MASQUELET教授とHERNIGOU教授が来日できなかった。

2023年、MASQUELET先生は日本骨折治療学会に参加予定である。HERNIGOU先生はSICOT理事長就任後の初めての来日予定で、第96回日本整形外科学会(岡山大学教授・尾崎敏文先生担当・5月11日～14日)と第38回日本整形外科学会基礎学術集会(筑波大学教授・山崎正志先生担当・10月19日～20日)に出席される予定だ。

2023年の第49回日本骨折治療学会は、順天堂大学付属静岡病院の最上敦彦先任准教授が会長を務め、6月29日から7月1日までの3日間、静岡市で開かれる(図11)。順天堂大学主催は、私が務めた2016年の第42回学会から2度目である。

各学会への皆様のご参加を、よろしくお願い申し上げます。



●図11 2023年6月29日から7月1日まで開催の第49回日本骨折治療 学会ポスター

小野村先生の思い出

土居整形外科 藤原 憲 太

小野村敏信先生は、数多くの学会を主催し、日本整形外科学会理事長をはじめ要職を歴任された巨人であることは皆様ご存知のことと思います。その深淵なる学識・志操・哲学に言及するなどの不遜なことは到底出来ようはずありません。天は二物を与えずと申しますが、小野村先生は二物どころではありませんでした。その上に、若かりし頃の小野村先生の写真を見ていただければお分かりの通り、非常に端正なお顔立ちをされていました(写真1,2)。

この稿では、小野村先生という巨龍の周りを飛び回っていた蜻蛉からみた印象に残った思い出を書き留めたいと思います。

小野村敏信先生は、大阪医科大学(現大阪医科大学)の整形外科教室の第3代主任教授に1974年(昭和49年)に就任され、1996年(平成8年)に退任されるまで22年間教室を主催されました。私は平成2年に大阪医大に入局し、晴れて小野村門下生となったわけですが、新入医局員にとっての小野村先生はまさに雲上人でした。

当時のカンファレンスでの我々新米の仕事は、カンファレンス前に各テーブルに大きな灰皿を配り、小野

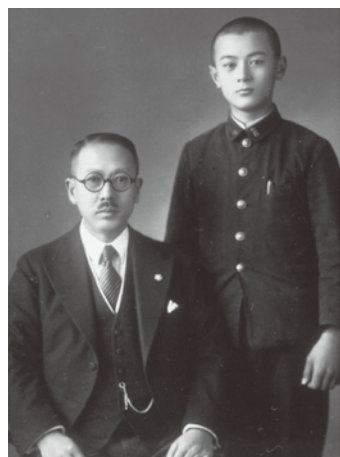
村先生の陣取る最前列にはコカコーラを1本置くことから始まります(写真3)。今では考えられないことですが、ヘビースモーカーの多かった当時の教室ではカンファレンス最中にタバコをふかしながら議論することが当たり前で、後席からシャーカステンのエックス線像が見えにくくなるほど紫煙が部屋に朦々と立ち込め、しばしば空気の入替えのため中断することもありました。特筆すべきはその緊張感です。同期の新米医局員は8名いたのですが、月曜日の新患紹介、術前検討、術後発表のための原稿が完成していないと日曜日の午後を落ち着いて過ごすことが出来ず、誰に言われたわけでもないのですが、ほぼ全員医局に集合してエックス線像のトレースや、発表原稿を仕上げていました。月曜日朝一番にライターの先生に原稿を見てもらい、真っ赤に添削された原稿を清書してカンファに臨むのですが、カンファレンスでの小野村先生の眼光は鋭く、次々と不備が晒され立ち往生もしばしばでした。インオペ(手術中止：実際に先輩でカンファレンスで患者理解が足りず手術が中止になったエピソードをまず教えられます。ますます緊張してしまいます)になることは幸いなかったのですが、不思議なことに

これでもかと勉強した時は質問がなく、不安を抱えたまま前に立つと集中放火を浴びてしまいます。

外来のシュライバーの時などは緊張のクライマックスです(写真4)。ペン先をインク瓶につけて流麗な筆致で主訴などを書かれた後に、はいっとシュライバーにカルテを手渡し診察に入られるのですが、診察所見に英語が混じり、時にはドイツ語が飛び出すともういけません。院生の先生と新米コンビでシュライバーについていたのですが、院生の先生の顔が真っ青になる場面を何度も見ました。当然書き取れず空白の多いカルテを小野村先生にお返しするのですが、決して声を荒げて怒られるということはありませんでした。ふっと微笑まれて空白をさらさらと埋めていかれる姿に、身を小さくして勉強不足を恥じ入ると同時に、格好いいあと憧憬の眼差しを上目使いに送っておりました。

その後1年間の大学研修後に私は関連病院に4年間出向し、その後、院生として帰学しました。院生時代に小野村先生とご一緒させていただいたのは、1996年(平成8年)スペイン、マドリードで行われました国際運動器超音波学会です。私にとっては国際学会デビューでありましたが、同行した土居宗算講師(私が現在

勤務している土居整形外科の院長です)からホテル、交通手段全て仕切れと指令を受けてさてどうしようと当惑したことを覚えています。現在の様にインターネット情報などほとんどなく、早速地球の歩き方を購入して旅程を組みました。スペインならバルセロナは外せないと思い、バルセロナ→お城ホテル(パラドル) Parador de Cardona →マドリード(ホテルリッツ)を設定しました。リッツカールトンの小野村先生からの指定でした。何しろ初めての海外なので気合が入りすぎてバカでかいトランクにぎゅうぎゅういろんな荷物を詰めて参加しました。小野村先生は小さいトランクにいつものショルダーバック姿。そうして着いたバルセロナは雨でした。小腹が減ったからどこかに食べに行こうとなりましたが、雨足が急に強くなり玄関で立ち



●写真1 昭和17年(1942) 天王寺中学3年お父様と 4年間首席であった



●写真2 昭和37年(1962) 診療の間のスキーで骨折 福山雅治に似ている(筆者私見)



●写真3 昭和57年(1982) 外来カンファレンス風景 テーブルの上の灰皿にお気付きだろうか



●写真4 昭和57年(1982) 外来風景 よく見るとインク瓶にペンがさしてあります



●写真5 平成8年(1996) 国際運動器超音波学会 スペインバルセロナ サグラダファミリア協会の螺旋階段



●写真5 平成8年(1996) 国際運動器超音波学会 スペインバルセロナ サグラダファミリア協会の螺旋階段

往生。さてどうしようと思ったその瞬間。小野村先生は、例のショルダーバックからスッと折り畳み傘を抜き取って、「これ使い。皆の傘買ってきて。海外に行く時は折り畳み傘は常識や。」とおっしゃいました。旅慣れた大人というのを見せさせていただきました。

その後バルセロナでは、サグラダファミリア教会を回り、塔に皆で登りました(写真5)。ちょっと急で怖い螺旋階段でしたが小野村先生は楽しんでおられました。ガウディ建築内のレストランCasa Calvet(現在閉店)も面白そうと出かけましたが、フルコースの料理も美味しく、ワインも2、3本ぐらい空いた記憶があります。最後の支払いでこれまたスッと黒いカードを出されて、ボーイさんが目を白黒。「すみません。ご馳

走様です！」とお礼をすると「安いもんや。フレンチなら一人分ぐらいの値段や。」と平然たるお姿でした。こんなセリフがさらっと言える格好よさ。

お城のホテル(パラドール)に着くと(写真6)、その威風と豪華な内装にいたく感心されて小声で「嫁を連れてきてやったらよかった。」とポツリ。いつまでも仲睦まじいお二人に、その当時独身だった私が、結婚生活の秘訣を聞くと「藤原君、負けるが勝ちや。」と少し悪い顔でニヤリとされました。これは今でも活用させていただいております。

発表当日、ダブルスライドの順番が一つズレて、舞い上がった私は訳のわからないことを口走って、ますます混乱しそうになったその時。小野村先生がスッと立ち上がり、確か「Please move the left slide back.」と的確な指示をいただき元に戻りました。壇上から見る小野村先生は後光がさしていました。

その後、この学会にはチェコ、マケドニアにもご一緒させていただきましたが、マケドニアのオフリド湖畔を散策した時に、何やら感慨深げに湖面を見つめておられた姿が忘れられません(写真7)。前後しますが、写真8は1996年の小野村敏信教授退職記念祝賀会での1枚です。

長い長い前振りになりましたが、私が小野村先生に近しく接していただいた契機はやはり日仏整形外科学会でした。私は、瀬本先生が事務局全般を取り仕切っておられた関係で、2000年(平成12年)のフランス留学以来日

仏整形外科学会事務局の一員として参加させていただきました。

小野村先生は2003年(平成15年)のグルノーブルでの第7回AFJOを区切りとして七川歓次先生から会長を引き継がれました。

翌2004年(平成16年)には第11回日仏整形外科学会(SOFJO)の会長を務められました。フランスからのゲストスピーカーは、マルセイユで私が留学中にお世話になったポリニ教授でした。小野村先生、ポリニ教授ご夫妻と神戸を散策したことは忘れられません(写真9,10)。

2007年(平成19年)ニースでの第9回AFJO学会期間中のことです。突然、デュマのモンテクリスト伯で有名なマルセイユのイフ島にちょっと行ってくるわと言

われて慌てました。ご存知の通りマルセイユは南仏随一の港町で治安がちょっと悪いです(映画TAXIの舞台です)。ご一緒いたしましょうかとの申し出を一蹴されて、本当に一人で列車、タクシー、船を使い往還されたのには心底驚きました。ニースでは日本人シェフがミシュラン一つ星をとった「Keisuke Matsushima」にご一緒させていただいたことも忘れられません(写真11)。2008年(平成20年)に会長を小林晶先生にバトンタッチされた後も日仏整形外科学会には格別の想い入れを持ってご参加いただきました。

沖縄で大橋弘嗣先生が2009年(平成21年)に開催された第10回AFJOでは、今は焼失してしまった首里城前で写真を撮りました(写真12)。先生の下げておられ



●写真6 平成8年(1996) Parador de Cardona に宿泊
右から小山先生、小野村先生、土居先生



●写真7 平成16年(2004) 国際運動器超音波学会 マケドニアの世界遺産 オフリド湖
(左)瀬本先生ご夫妻と
(右)湖畔を見つめる小野村先生 後ろは佐藤公治先生(現名古屋第二赤十字病院 院長)



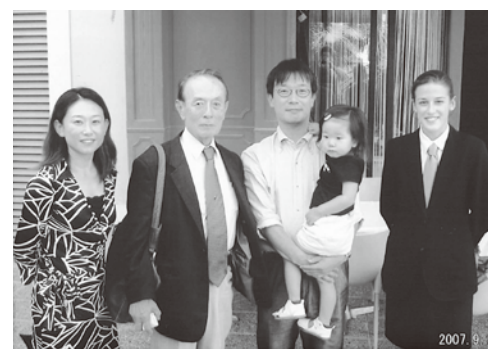
●写真8 平成8年(1996) 小野村敏信教授退職記念祝賀会
後ろに七川歓次先生のお姿が見える



●写真9 平成16年(2004) 第11回日仏整形外科学会(SOFJO) 小野村敏信会長



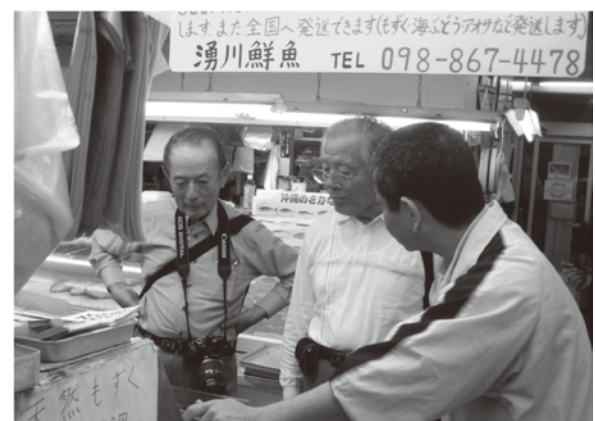
●写真10 平成16年(2004) 第11回日仏整形外科学会(SOFJO) フランスポリニ教授ご夫妻と



●写真11 平成19年(2007) 第9回日仏整形外科合同会議(AFJO) ニース レストラン Keisuke Matsushimaの前で妻と長女と



●写真12 平成21年(2009) 第10回日仏整形外科学会合同会議(AFJO)に参加 沖縄



●写真13 山室隆夫先生と 沖縄の公設市場で

るのはCanon EOSです。ご自宅で、昔使っておられたライカを見せていただいたこともあります。小野村先生が長年撮られてきた写真に何が写っているのか、何を切り取られてこられたのかが今更ながら気になります。

沖縄の公設市場では、1階の鮮魚店で買った魚介類を2階で調理してくれます。山室隆夫先生と魚を選んでいる時の楽しそうな雰囲気、お二人の長いお付き合いで醸成されたフランクな間柄を垣間見ることができました(写真13)。

2016年(平成28年)には、私と岡山の青木清先生の共同開催の日本側の日仏整形外科学会にもお越しいただきました。写真14は岡山会場での先生の温顔に苦勞が報われた筆者です。岡山から直島行きのフェリー(写真15)教室の根尾教授にご紹介いただいた数学講師



●写真14 平成28年(2016) 第17回日仏整形外科学会(SOFJO) 岡山・直島 筆者と小野村先生

でもある池田洋介さんのパフォーマンスを見ておられる姿(写真16)を今見返して改めて感謝の念を新たにいたしました。

日仏整形外科学会は元々アットホームな学会ですが、私にとって財産になったなと思うことは、小野村先生をはじめとして、名だたる先生方の素に近いご意見や振る舞いを、直近で見ることに尽きます。

こう書き綴っているうちに、それに刺激され様々な記憶が頭の中を巡ります。理想的なジェントルマンであられた小野村先生からは言葉だけではなく、その雰囲気、その洒脱、その教養、その威厳に本当に多くのことを学ばせていただきました。

話の途中などで、先生が我が意を得た時にニコッと笑いながら「そや」と言われる言い回しが今も耳に残って、もう聞けないことに非常な寂しさを覚えています。



●写真15 平成28年(2016) 第17回日仏整形外科学会(SOFJO) 岡山・直島 直島へ渡るフェリー船上でヘルニグ先生、金城先生、小野村先生、大橋先生



●写真16 平成28年(2016) 第17回日仏整形外科学会(SOFJO) 岡山・直島 瀬本先生と清水克時先生の間でパフォーマンス鑑賞

【御略歴】

昭和2年(1927) 9月1日(ベルリン) 生

■学歴

昭和27年(1952) 京都大学医学部医学科卒業

昭和28年(1953) 医師免許証受領

昭和35年(1960) 医学博士学位取得

■職歴

昭和28年(1953) 京都大学医学部附属病院副手

昭和30年(1955) 京都大学助手

昭和31年(1956) 関西医科大学講師

昭和35年(1960) 関西医科大学助教授

昭和35年(1960) 京都大学講師

昭和40年(1965) 文部省在外研究員

昭和43年(1968) 京都大学助教授

昭和49年(1974) 大阪医科大学(現大阪医科大学) 教授

昭和59年(1984) 大阪医科大学附属病院(現大阪医科大学) 教授
～63年(1988) 大学病院) 病院長

昭和59年(1984) 学校法人大阪医科大学(現学校法人大阪医科大学) 理事

平成6年(1994) 大阪医科大学附属看護専門学校長
～8年(1996)

平成8年(1996) 大阪医科大学(現大阪医科大学) 定年退職、名誉教授

平成8年(1996) 医療法人社団(現社会医療法人) 甲友会 名誉院長

平成14年(2002) 西宮協立リハビリテーション病院 名誉院長

■関連団体歴

昭和47年(1972) 第6回日本側弯症研究会(現日本側弯症学会) 会長

昭和50年(1975) 第9回日本側弯症研究会(現日本側弯症学会) 会長

昭和53年(1978) 第50回中部日本整形外科災害外科学会会長

昭和53年(1978) 第7回日本脊椎外科研究会(現日本脊椎病学会) 会長

昭和60年(1985) 文部省学術審議会専門委員

昭和62年(1987) 厚生省精神神経疾患研究委託費研究班班長

平成元年(1989) 第1回日本整形外科超音波研究会(現日本整形外科超音波学会) 会長

平成2年(1990) 厚生省精神神経疾患研究委託費運営委員会委員

平成2年(1990) 第20回人工関節研究会(現日本人工関節学会) 会長

平成2年(1990) 第19回日本脊椎外科学会(現日本脊椎病学会) 会長

平成3年(1991) 第3回日本理学診療医学会会長

平成3年(1991) 社団法人日本整形外科学会理事長

平成4年(1992) 高槻市医療問題審議会会長

平成4年(1992) 日本医学会評議員

平成5年(1993) 財団法人日本二分脊椎・水頭症研究助成財団理事

平成6年(1994) 国際運動器超音波医学会会長

平成7年(1995) 国際整形災害外科学会財団理事

平成8年(1996) 財団法人整形災害外科学研究助成財団理事

平成9年(1997) 国際運動器レーザー医学会会長

平成16年(2004) 第11回日仏整形外科学会会長

■受章歴

平成18年(2006) 瑞宝中綬章受章



令和3年(2021)12月31日 逝去

坂巻先生を偲んで

静岡赤十字病院整形外科 西 脇 徹

昨年2022年3月に大学の先輩である坂巻豊教先生が他界されました。坂巻先生の足跡や思い出をINFOSに寄稿させて頂きたいと思います。

坂巻先生の御略歴

坂巻先生は1971年に慶應大学医学部を卒業され、数カ所の大学関連病院にご勤務のあと1991年に慶應大学整形外科教室専任講師、1995年に助教授になられました。この期間、慶應大学整形外科の股関節班チーフとして班を牽引されました。変形性股関節症に対し、キアリ骨盤骨切り術やTriple osteotomy、バイポーラー人工骨頭置換術、カップ関節形成術を精力的に行っていました。また、日本人の大腿骨近位部骨髓腔や臼蓋形態の研究を行い、KKS (Keio-Kyosera Series) 人工股関節システムを開発されました。その後、1996年に国立小児病院、2002年に国立成育医療センター整形外科医長に着任され、小児整形外科の発展に尽力されました。2008年には第19回日本小児整形外科学会の会長をお務めになりました。

坂巻先生との出会い

私は1998年慶應大学を卒業し、整形外科に入局しました。当時、卒後1年目のフレッシュマンが夜間19時ごろから手術助手をしてそのまま当直する外勤パートがありました。そこの夜間の手術は主に慶大整形のスタッフが手術をおこなっていたのですが、そこで1度だけ坂巻先生の人工股関節置換術の手術助手に入る機会がありました。その時が、坂巻先生との初対面だったと思います。坂巻先生は大学から異動された後でしたが、おそらく坂巻先生に執刀してもらいたい患者様の手術だったのだと思います。その当時は助手をこなすことに一杯一杯で、穏やかで優しい坂巻先生の雰囲気と厳しい看護師さんのことしか残念ながら覚えていません。先生の手さばきや術野・展開を覚えていないことが本当に悔やまれます。

私が専門を股関節に決めたころに、坂巻先生は心臓手術後に脳梗塞を患い、その後遺症からメスを置かれてしまいました。股関節班の諸先輩方から、坂巻先生のメスさばきは細心にして大胆、ゆっくりやっているようであつという間に終わるというエピソードを聞く度に、その手術を見ることができないこと、学べないことに、とても残念な気持ちになったのを覚えています。以降、手術を直接拝見することは叶いませんでしたが、今でも成育医療センターや静岡赤十字病院など大学関連病院の先々で坂巻先生が手術をされた患者様を直接拝見する機会が多々あります。その素晴らしい臨床成績もさることながら、患者様から信頼されているお話を聞き、本当に素晴らしい先輩をもったことを嬉しく思います。

日仏整形外科

大学の股関節班の集まりで何度かお話をした際に、日仏整形外科やフランス留学の話伺い、フランス留学をしたいと感じるようになりました。学位をとり留学許可がでて、坂巻先生のお誘いでフランス留学を果たすことができました。留学前に、前方進入筋腱温存進入による人工股関節置換術 (DAAによるTHA) や仰臥位前方進入による骨盤骨切り術 (CPO) を行っていました。このフランス留学で学んだことをアレンジして、それぞれの手術がより低侵襲になるよう自分なりに改良を加えました。帰国後、10年ちょっとになりますが、人工股関節や骨切りのこれらアレンジが少しずつ認知されてきていて、現在の自分のライフワークの一つになっています。フランス留学は私自身の整形外科キャリアの中で大きな転機になったことは間違いありません。このような機会をくださったことに大変感謝しています。

坂巻先生のお言葉

私が講師として大学にいるときに、坂巻先生に講演をお願いしました。その時に、「人工関節の成績が良くなっている現状で、人工関節に大きな影響を与える手術はなるべく避けた方がよい」とお話をされていて、大変驚いたことを覚えています。キアリ骨盤骨切り術を多く経験なさったからこそその言葉で、大変深く印象に残りました。また、「人生には色々なこと、予期しないことがある。だから、今できること、やりたいことを直ぐにやりなさい。」とお会いする度にお話しされていました。脳梗塞を患ったご自身の経験から来るお言葉で心に残っています。

今回、このような寄稿の機会をいただき、あらためて坂巻先生のことを思い出し、考えることができました。一緒に働くことはありませんでしたが、私の中で坂巻先生との出会いは大きなもので、多大な影響をうけていることを実感しました。私自身、坂巻先生と同様に後輩に良い影響が与えられるように、坂巻先生のお言葉を胸に精進していきたいと思います。

もう少し色々お話ししたかったです。坂巻先生、お疲れ様でした。



●坂巻先生ご夫妻と

La société française à travers le travail et les congés. 仕事と休暇からみたフランス人社会

Bogdan PROPECK



Les Français bénéficient d'une semaine de travail de 35 heures, de cinq semaines de vacances par an (congés payés) et d'une retraite à 62 ans.

Cependant, il est difficile de trouver un emploi, surtout pour de nombreux jeunes qui peinent à débiter leur vie professionnelle.

Il existe de nombreuses raisons, mais la plus importante est que les employeurs ne veulent pas payer les charges sociales importantes liées à l'embauche d'employés.

En France, la durée du temps de travail est très réduite. Les salariés français travaillent en moyenne 1602 heures par an, alors que les Japonais travaillent en moyenne 1957 heures. Dans leur vie, les Français travaillent en moyenne 30% de moins que les Japonais.

Plusieurs raisons expliquent cette différence :

d'abord, la durée légale de la semaine de travail est de 35 heures. Au-delà, un employeur doit payer des heures

supplémentaires (choses qui est assez rare).

Ensuite, la durée normale des congés payés est de cinq semaines. Presque tous les employés utilisent la totalité de ces congés.

Enfin, les gens partent en retraite très tôt : entre 55 et 65 ans. Seulement 33.5% des personnes de plus de 55 ans travaillent. Ceci est en train de changer.

Une autre caractéristique de l'emploi en France est moins réjouissante : il y a beaucoup de chômage. Le taux de chômage global est supérieur à 8%. De plus, le taux de chômage des jeunes de 15 à 24 ans en recherche d'emploi est plus élevé en France que dans les autres pays (21% contre 11% seulement en Allemagne).

Le chômage des jeunes est un problème préoccupant car certains ont peu de chances de trouver un jour un travail stable. Cela crée une « fracture sociale », source de violences.

Dans certains quartiers de certaines villes, le taux de chômage atteint 60%.

Le chômage en France a des causes multiples : les crises mondiales, la disparition de secteurs entiers de l'industrie, les délocalisations de certaines entreprises vers des pays où la main-d'œuvre ne coûte pas cher, etc ...

Mais il y a d'autres causes : les entreprises hésitent à embaucher. Deux raisons pour expliquer cette hésitation : d'abord, il est difficile de licencier un mauvais employé. Ensuite, les charges sociales sur les salaires sont très élevées, donc les salariés coûtent cher à l'entreprise.

Au Japon, on a parfois une image idéalisée de la France ou il y a une certaine qualité de vie, ou l'on sait prendre son temps. Mais c'est également le pays où les gens expriment leurs désaccords vigoureusement. Il est normal d'exposer ses arguments avec force, puis de décider à la majorité. On n'hésite pas alors à aller jusqu'au conflit lorsqu'un accord paraît impossible.

Ainsi, les grèves et manifestations sont fréquentes et paralysent le pays. Le but est de déranger le plus de monde possible pour avoir un impact maximum. Par exemple, les employés des trains, métros, et aéroports se mettent en grève à la veille des vacances pour mettre la pression sur le gouvernement.

Malgré les problèmes engendrés, cela a permis d'obtenir de meilleures conditions de travail dans le passé (les congés payés, la sécurité sociale, la retraite).

De nos jours, leurs objectifs sont de conserver les avantages acquis.

D'une manière générale, il y a un climat de méfiance entre patrons et employés. Le manque de dialogue aboutit à un niveau élevé de stress professionnel. A cause de cela il y a un fort absentéisme (congés maladie) dans les entreprises.

En plus des jours fériés, les Français ont cinq semaines de vacances par an. Le plus souvent ils prennent 2 à 3 semaines en août. Les vacances d'été marquent la fin de l'année scolaire et universitaire.

Pendant ces vacances, 20% partent à l'étranger, principalement en Espagne en Italie, au Maroc et en Tunisie. Ces destinations sont dépaysantes et bon marché. Souvent les gens du nord préfèrent aller au bord de la mer et retrouver le soleil alors que les gens du sud recherchent la fraîcheur de la campagne et de la montagne.

En été le sud de la France est l'endroit le plus populaire pour les Européens qui viennent profiter des magnifiques plages, du canyon des gorges du Verdon, des petits villages de Provence...



●図1 Manifestation des gilets jaunes 黄色いベスト運動



●図2 NICE



●図3 Chamonix 1 夏のシャモニー



●図4 Chamonix 2 モンブランの麓 シャモニーの村

Les plus aisés dorment à l’hôtel ou dans leur propre maison de vacances. Cependant il est courant de louer une maison ou un appartement, de dormir dans une chambre d’hôtes ou encore d’aller au camping.

Pour les français, les vacances sont synonymes de détente, de prélassement. Même s’ils aiment avoir des activités, le but est de prendre son temps pour faire des choses agréables et reprendre des forces pour le retour au travail.

Le plus important c’est d’avoir du soleil car les gens aiment bronzer, c’est le synonyme de vacances réussies et d’avoir l’air en bonne santé, reposé et détendu. C’est pourquoi les gens vont sur la Cote d’Azur, en Provence, sur la côte Atlantique, en Espagne et en Italie. L’autoroute qui va de Paris à Marseille est surnommée « l’autoroute du soleil ».

Même en hiver, ils profitent du soleil et bronzent en maillot de bain dans les stations de ski.

En vacances, la plupart des français veulent surtout se reposer, se changer les idées. Les journées passent lentement : promenade, sieste, lecture, baignades...Souvent ils se lèvent tard et passent beaucoup de temps dehors, sur une terrasse, dans un jardin, sur la plage...Ils déjeunent en général assez tard et il n’est pas rare de rester a table une bonne partie de l’après-midi. Cependant, la gastronomie locale n’est pas essentielle. Souvent, ils



●図5 Village Alsacien アルザス地方の村

préfèrent aller au marché et cuisiner eux-mêmes.

On peut dire que les vacances sont moins axées sur la culture que celles des Japonais : on ne part pas vraiment pour découvrir des spécialités culinaires, visiter des musées ou expositions, voir des spectacles... Également les français n’aiment pas les visites éclairés dans les lieux touristiques. On aime prendre son temps et se déconnecter de la réalité quotidienne.

Merci d’avoir pris le temps de lire cet article et j’espère vous avoir inspiré pour vos prochaines vacances.

フランス人は、週35時間の労働、年間5週間の有給休暇、および62歳での退職の恩恵を受けています。その反面、定職に就くのがとても難しく、特に就職活動で苦勞している多くの若者にとってはなおさらです。その理由はたくさんありますが、最大の理由は、雇用主が労働者に関連する多額の社会保障費を払いたくないということにあります。

フランスでは労働時間が非常に短いです。フランスの労働者は年間平均1602時間働いていますが、日本人は平均1957時間働いています。一生に換算するとフランス人の労働時間は、日本人より30%も少ないということになります。この違いにはいくつかの理由があり



●図6 Promenade des Anglais ニースのプロムナード・デ・ザングレ

ます。まず法定労働時間が35時間であるということです。それを超えると、雇用主は残業代を支払わなければなりません(非常にまれです)。次に有給休暇が年間5週間です。ほぼ全労働者が全期間取得します。最後に、55歳から65歳という非常に若い年齢で定年退職します。55歳以上で働いている人はわずか33.5%ですが、これは変わってきています。

フランスの雇用のあまり喜ばしくないもう1つの特徴は、失業率の高さです。全体の失業率は8%を超えています。さらに求職中の15歳から24歳の若者の失業率は、周囲の国よりもフランスの方が高いです(フランス21%に対し、ドイツはわずか11%)。

安定した仕事を見つける機会がほとんどない若者もあり、若者の失業率の高さは憂慮すべき問題です。これは暴力の源である「社会的分断」を生み出します。一部の都市では、失業率が60%に達している地域もあります。

この高い失業率には複数の原因があります。世界的な危機、工場部門全体の消滅、労働力が安い国への特定企業の移転などです。しかし他にも原因があります。企業が採用に消極的であることです。雇用を躊躇する理由は二つあります。まず、悪い労働者を解雇することが困難であること、そして賃金に対する社会保障費が非常に高いため、労働者は会社にとって割高であることです。

日本においては、生活の質が高く、時間の使い方が



●図7 Les gorges du Verdon ヴェルボン渓谷

上手といった理想的なフランスのイメージがあると思います。しかしフランスは、人々が意見の違いを激しく言い合う国でもあります。自らの意見を目一杯主張し合い、結局多数決で決定することはよくあります。合意が不可能な場合は、衝突することを躊躇しません。

そのためストライキやデモが頻繁に発生し、国を麻痺させています。それらの目標は最大限の影響を与えるために、できるだけ多くの人々を混乱させることです。

たとえば鉄道、地下鉄、空港の労働者は、政府に圧力をかけるためにヴァカンスの前夜にストライキを行います。

引き起こした問題の大きさにもかかわらず、これにより、より良い労働条件(有給休暇、社会保障、退職金)を得ることが過去に可能になりました。現在の彼らの目的は、獲得した条件を維持することです。一般的に、雇用主と労働者の間には不信感が常にあります。双方の対話がなければ、高いレベルの専門的なストレスにつながります。そのせいで企業では、病気休暇による欠勤が著しく多いのです。

祝日に加えて、フランス人には年間5週間の有給休暇があります。大半が8月に2-3週間のヴァカンス(長期休暇)を取ります。夏休みは、学校と大学の年度の終わりを意味します。このヴァカンス中に、20%が主にスペイン、イタリア、モロッコ、チュニジアなどの



●図8 un déjeuner estival 夏のランチ

海外に出かけます。これらの国は異国情緒がある上、物価が安いのです。多くの場合、北の人々は太陽を求めて、南の海辺に行くことを好みますが、南の人々は、田舎や山の涼しさを好みます。

夏の南フランスは、壮大なビーチ、ヴェルドン渓谷の峡谷、プロヴァンスの小さな村々など、ヨーロッパ人に最も人気のある地域です。

裕福な人々は、サービスの調ったホテルや自分の別荘に滞在します。しかし一般的なのは、家やアパートを借りたり（ヴァケーションレンタル）、シャンプルドット（民宿）に泊まったり、キャンプをしたりすることです。

フランス人にとって、ヴァカンスはリラクゼーションとくつろぎの代名詞です。アクティビティが好きでも、時間をかけて楽しいことをし、仕事へ戻る活力を取り戻すことがヴァカンスの目標なのです。

ヴァカンスで最も重要なことは、太陽の光を浴びることです。なぜならフランス人は日焼けをするのが大好きだからです。日焼けはヴァカンスの成功の象徴であり、健康で、十分休息し、リラックスしているように見えます。だから皆、コートダジュール、プロヴァンス、大西洋岸、スペイン、イタリアへ向かうのです。パリからマルセイユに向かう高速道路は「太陽の街道」と呼ばれています。冬でもスキー場で水着を着て日光浴を楽しみます。



●図9 Le marche provançal 1 プロヴァンスのマルシェ1

ヴァカンスの間、大半のフランス人は何よりも休息を取り、考えを変えたいと思っています。時間はゆっくりと過ぎます。のんびりと散歩、昼寝、読書、水泳などを楽しみ、しばしば遅く起きて、テラス、庭、ビーチなどの屋外で多くの時間を過ごします。ランチタイムは遅く始まり、午後のかかなりの時間、テーブルにとどまることも珍しくありません。しかも地元のグルメは必須ではありません。皆、市場へ行って食材を調達し、自分で料理することを好みます。

長期のヴァカンスは、日本人の文化にはあまり浸透していないように感じます。ふらりと入ったお店で名物料理を発見したり、地元の博物館や展示会を訪れたり、ショーを見たり。フランス人のようなゆったりしたヴァカンスを過ごすことはあまりないように思われます。

フランス人は日本のツアーのような観光地へのショートトリップを好みません。私たちは日常や現実から、時間をかけて切り離すのが好きなのです。

この記事をお読みいただきありがとうございます。次のヴァカンスを刺激するきっかけになれば幸いです。

（文責・水野）



●図10 Le marche provançal 2 プロヴァンスのマルシェ2

■Bogdan PROPECK



フランス Aix en Provence出身。

2012年まで、南仏で外国人向けのツアーガイドを行っていた。

2018年-2019年NHK Eテレ「旅するフランス語」に、女優黒木華さんの旅のパートナーとして出演し、ボグダンさんの愛称で親しまれた。

現在、大阪でフランス家庭料理のケータリングサービスと料理教室を中心に活動している。

<https://www.facebook.com/petit.chef.osaka/>

www.youtube.com/channel/UCKQXatvWM1fZ4u3n1CLPdxQ?view_as=subscriber

「人は乾杯の数だけ幸せになれる!」 泡の魅力を横浜やシャンパーニュで togetherに体感しましょう!

旭川荘療育・医療センター(岡山) 青 木 清(ワインエキスパート)



皆さん、ボンジュ〜!

今年の7月8日に、横浜で日仏整形外科学会が開催されます。そして、その次の学会はフランスのシャンパーニュ地方ランスで開催予定です。

「人は乾杯の数だけ幸せになれる!」と言われます。乾杯には、ビール、ハイボール、シャンパンなど泡がある飲み物がよく用いられます。シュワシュワとした泡は、気持ちが上がり癒されますね。

今回は、人生や毎日の生活における泡、特にシャンパンをはじめとするスパークリングワインの意味や意義を少しだけ見直し、ランスへのモチベーションアップを目指します。

【スパークリングワインの定義】

ワインエキスパートの試験¹⁾を受けた際に届いた教本²⁾には、「20℃で3.5bars(小容量瓶では3.0bars)以上の炭酸ガス圧を有するもの」、と定義してあります。

製法により、①トラディショナル方式(シャンパーニュ方式)、②シャルマ方式、③トランスファー方式、④その他、に分けられます。

シャンパーニュ方式は、スティル・ワイン(20℃で二酸化炭素の含有量4g/l未満のワイン)を瓶に詰め、糖分と酵母を加え密閉し、瓶内で第二次発酵を起こさせる方式のことを言います。フランスのシャンパーニュの他、ドイツでFlaschengärung(フランシェンゲールング)、イタリアでMetodo classico(メトド・クラシコ)、スペインでCava(カバ)と表記されたものはこの方式で造られています。

【私のおすすめ(日常生活)】

イタリアのスパマンテの中のMetodo classicoやスペインのCavaは、リーズナブルで美味しいです。私は、特にCavaが大好きです。「Cava, ça va!!(カバ、サバ!)」

最近は、ロゼの泡、赤の泡、日本の泡などいろいろとトライし、多様性を楽しんでいます。特に、甘めのランブルスコ(イタリア)やしっかりとしたシラーズの泡(オーストラリア)が、我が家のお気に入りです。

【非日常における泡の思い出】

シャンパンは、上品で美味しいです。記念日やお祝いの時などに気持ちが上がります。しかし、高価なので毎日飲むわけにはいきません・・・。

だからこそ、人生において楽しいメンバーと共有した泡にまつわる思い出は宝です。第17回日仏整形外科学会の記録(図1-3)と近年のスペシャルな泡(図4)を振り返ってみました。

【スパークリングワインの小ネタ】

- 1) ボトルを開ける時には、キャップシールと留め金を緩めます。実は、ほとんどの場合、「6回」回せば留め金が緩みます!
- 2) 泡が噴き出さないようにするためには、ボトルを45度くらい傾けて、コルクを持って、ボトルの方

を回していけば大丈夫です(例え、直前にボトルを振ったとしても!!!)³⁾。

3) 乾杯のルールの1つは、「必ず相手の目を見て!」

4) その他(横浜でお伝えしますね)

今年の日仏整形外科学会は、柁原会長がフランスのゲストをはじめ、いろいろと準備してくださっています。7月8日(土)の午後には、ワインに関する教育研修講演(日整会単位申請中)が予定されています。

水野直子Dr.が、「フランスのワインと食文化から学ぶロコモ・フレイル対策 パート1: Petits plaisirs フランス人の長寿の秘訣」と題して、私が、「フランスのワインと食文化から学ぶロコモ・フレイル対策 パート2: Bonjour!!, Cava, ABC and Marriage」と題して、お話をさせていただく予定です。その中では、フランス人のおしゃべり、ワイン品種の多様性、ワインと料理のマリアージュなどに加えて、「泡の魅力」に関して深めていきたいと考え、準備しています。

ワインは出会いを演出するお酒です²⁾。「ちょっぴりワインがあるだけで♪」、「ちょっぴり泡があるだけで♪」、「ちょっぴり乾杯があるだけで♪」、私たちの日々や人生は楽しくなります。「慌ただしい」生活の中でも、「泡正しい」一瞬や生き方、を目指して



●図1 会長の藤原憲太Dr.&青木清



●図2 テタンジェの6Lボトルin岡山



●図3a モエ・エ・シャンドンの15Lボトルin直島



●図3b 大きなピッチャーに注いでからサーブ



●図3c 乾杯のご発声by瀬本喜啓Dr.

いきたいものですね。

私からの提案は、「横浜あわあわ!」、「ランスで乾杯!」です。

À bientôt à Yokohama awa-awa!!

À votre santé à Reims!!

【参考文献・サイト】

- 1) 青木清、ワインエキスパート清の合格体験記ー2020年7月から10月にかけての濃いめにソーヴィニオンな体験ー、日仏整形外科学会誌 (INFOS)、Vol.31、2021、p.41-50
- 2) 日本ソムリエ協会 教本 J.S.A. ソムリエ J.S.A. ワインエキスパート、日本ソムリエ協会、2020
- 3) Wine Folly's Handy Champagne Guide | Wine Folly



●図3d 金子和夫会長



●図3e ワイン仲間の岡Dr.



●図3f 左からHERNIGOU Dr.(現在SICOTの会長をされておられます)、事務局長金城健Dr.、WICART Dr.



●図4a・左 モエ・エ・シャンドンのマグナム古酒、泡がほとんどない状態で大きなワイングラスで楽しめます



●図4b・中 バー・ソルトリックのマスターが「B型の会」に持参してくださった泡



●図4c・右 ソムリエるみさん持参のボランジェ2002年、ワイン好きの知人が「今まで飲んだシャンパンの中で1番美味しい!」とコメント、はちみつのような味でした!

新幹事のご紹介



千葉大学大学院医学研究院
整形外科学

教授 大鳥 精司

日仏整形外科学 (SOFJO) の幹事を拝命して

この度は日仏整形外科学会 (SOFJO) の幹事にご推薦賜り、金子和夫会長をはじめ、役員、事務局の皆様方には深く御礼申し上げますと共に、ご指導の程、何卒宜しくお願い申し上げます。SOFJOは、第1回 (1987年)、七川歆次会長のもと神戸にて開催され、その後も脈々と、伝統を継承しながら発展しております。千葉大学同門でも、第15回 (2012年) に松戸市立病院・飯田哲会長が東京にて、日仏整形外科学合同会議は第14回 (2017年) に、千葉大学・高橋和久名誉教授と船橋整形外科・老沼和弘先生が合同会長として、日光で開催されました。個人的にはフレンチもワインも大好きですが、中高とラグビー部であり、シャンパンラグビー (ボールを持った選手がどこにパスを放っても泡のように後方選手が湧いてくる) と称するフランスラグビーは私の憧れでした。流血し、小柄ながら歴代フランス代表主将の中で最も尊敬される、ジャン・ピエール・リーブ氏は「ラグビーは少年をいち早く大人にし、大人にいつまでも少年の心を抱かせる」と語りました。学問、臨床が成熟に達しても、少年の心を忘れない、そんな多くの整形外科医師が育ってくれることを祈念しつつ、微力ながら学会に貢献したいと思います。

幹事就任のご挨拶

日仏整形外科学会 (SOFJO) の幹事にご推挙いただきました福井大学整形外科学の松峯と申します。僭越ながら、新幹事としてご挨拶させていただきます。

私は、七川歆次先生の勧めで日仏整形外科学会に参加したことがきっかけで、フランスの文化と、そこから湧き上がる独創的な整形外科にすっかり虜になりました。そして、三重大大学整形外科に在職中であった平成14年、交換研修生としてパリのCochin病院とSt-Vincent de Paul病院に短期留学させていただきました。あれからもう20年余りがたちましたが、パリでの生活、古いけど効率的な手術室、お世話になった先生方のことを、つい最近のこのように思い出すことができます。本当に素晴らしい経験でした。

新型コロナの拡散により、大好きなフランスへの渡航が叶わず大変寂しい思いをしておりましたが、やっと終息のめどが立ってきました。この大切な時期に、日仏整形外科学会の幹事に御推挙していただきましたこと、大変光栄に感じております。

微力ではありますが、日仏間の整形外科交流に尽力したいと考えておりますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



福井大学学術研究院医学系部門
医学領域 器官制御医学講座
整形外科学分野

教授 松峯 昭彦

日本側・フランス側役員を紹介します

日本側役員

会 長	金子 和夫	幹 事	松峯 昭彦
副会長	大橋 弘嗣		安永 裕司
書記長	本間 康弘	名誉会員	小林 晶
会 計	青木 清		瀬本 喜啓
書 記	安藤 厚生	統括交換研修委員	金城 健
幹 事	飯田 哲		西脇 徹
	今井 晋二		前田 勉
	大鳥 精司		水野 直子
	柁原 俊久	交換研修委員	市原 理司
	岸 孝章		大槻 周平
	久保 俊一		竹本 充
	田中 康仁		内藤 聖人
	藤原 憲太		藤城 高志
	星 忠行		

フランス側役員

Président	Philippe Hernigou (Paris)
Secrétaire Général	Philippe Merloz (Grenoble)
Trésorier	Philippe Wicart (Paris)
Membres de Bureau	Philippe Liverneaux (Strasbourg)
	Alain Durandeau (Bordeaux)
	Jean Pierre Courpied (Paris)
	Jacques Caton (Lyon)
	Olivier Guyen (Lyon)

日仏整形外科学合同会議 (AFJO) 開催一覧

会 期	開 催 地	議 長
第 1 回 1990年 11月12日	パ リ	Régie C. Michel
第 2 回 1992年 10月 4 日	京 都	七川 歆次
第 3 回 1994年 11月 7 日	パ リ	Charles Picault
第 4 回 1996年 4 月13～14日	東 京	菅野 卓郎
第 5 回 1998年 9 月17～19日	リヨン	Jean Pierre Courpied
第 6 回 2001年 5 月11～12日	大 阪	小林 晶
第 7 回 2003年 9 月26～27日	グルノーブル	Philippe Merloz
第 8 回 2005年 5 月 6 ～ 7 日	京 都	瀬本 喜啓
第 9 回 2007年 9 月14～15日	ニース	Jacques Caton
第10回 2009年 5 月28～30日	沖 縄	大橋 弘嗣
第11回 2011年 6 月 2 ～ 4 日	ボルドー	Arain Durandeau
第12回 2013年 5 月30～ 6 月 1 日	京 都	飯田 寛和、田中 千晶
第13回 2015年 6 月 4 ～ 6 日	サン・マロ	Philippe Hernigou
第14回 2017年 5 月12～13日	日 光	高橋 和久、老沼 和弘
第15回 2019年 9 月14～15日	リヨン	Luc Kerboull
第16回 2022年 4 月 4 ～ 6 日	奈 良	田中 康仁
第17回 2024年	ランス	Philippe Hernigou

日仏整形外科学会 (SOFJO) 開催一覧

会 期	開 催 地	会 長
第 1 回 1987年 11月 6 日	神 戸	七川 歆次
第 2 回 1988年 10月29日	東 京	七川 歆次
第 3 回 1989年 11月11日	大 阪	七川 歆次
第 4 回 1991年 11月 9 日	大 阪	七川 歆次
第 5 回 1993年 10月30日	大 阪	七川 歆次
第 6 回 1995年 5 月10日	大 阪	七川 歆次
第 7 回 1997年 11月 1 日	大 阪	七川 歆次
第 8 回 1999年 10月16日	大 阪	山野 慶樹
第 9 回 2000年 11月25日	横 浜	坂巻 豊教
第10回 2002年 10月12日	弘 前	原田 征行
第11回 2004年 11月 6 日	神 戸	小野村敏信
第12回 2006年 10月14日	京 都	久保 俊一
第13回 2008年 9 月27日	東 京	金子 和夫
第14回 2010年 9 月25日	広 島	安永 裕司
第15回 2012年 9 月22日	東 京	飯田 哲
第16回 2014年 9 月 6 日	福 岡	塩田 悦仁
第17回 2016年 11月25～26日	岡 山・直 島	藤原 憲太、青木 清
第18回 2018年 7 月 7 日	大 津	今井 晋二
第19回 2020年 12月19～20日	神 戸	星 忠行
第20回 2023年 7 月 8 日	横 浜	柁原 俊久
第21回 2025年 4 月 5 日	福 井	松峯 昭彦





日仏整形外科学会では、フランス整形外科学会（SOFECOT）との間で青年整形外
科医の交換研修を行っております。来年度の研修条件、応募条件等は下記のとおり
ですでお申し込みください。
本交換研修プログラムの趣旨は、フランスとのコネクションを持たない青年医師に留学先を
紹介し、渡航費用と滞在費の一部を援助するというものです。したがって、一度フランス留
学を経験しておられる先生は応募をご遠慮ください。

募 集 要 項	
1) 募集人員	若干名（2024年度）
2) 研修条件	1. 滞在期間は3か月間を原則とする。 この間はヴィザが不要であるが、これを越して滞在する場合の延長に関するすべての手続き（語学学校 入学手続きやヴィザ発給のための受け入れ承諾書の依頼等）は自分ですること。 1か月単位であれば複数の施設での研修も可能である。 7月、8月はフランスのパカンスシーズンになるので避ける方が望ましい。 2. フランスでの滞在施設は、希望する研修分野等に応じてフランス側の担当委員が最も適当と思われる施 設を推薦する。ただし応募者が特定施設を希望するときは申し出ることができる。 3. 費用について a) 渡航費用の一部を日仏整形外科学会が援助する。 b) フランス滞在中の滞在費、食費および移動などの費用は原則として自己負担とする。 4. 帰国後、日本語での報告書の提出ならびに本会の総会での帰朝報告を行う。 5. 本年度の研修開始時期は4月以降とする。
3) 応募条件	1. 応募者は日仏整形外科学会会員であること。 2. 応募者は日本整形外科学会専門医であること。 3. 勤務している病院または施設の責任者の承諾のあるもの。 4. フランス語または英語を話すもの。
4) 応募に必要な書類	1. 日仏整形外科学会交換研修申請書（TXT、PDFをダウンロード・毎年様式が変わるので、注意する事） 2. 履歴書（大学卒業以降とする） 3. 応募の動機や抱負についての小論文 4. 日仏整形外科学会会員1名の推薦状―推薦者は身元保証人に準ずる者と考えること。 5. 業績目録―主な発表論文5編以内（論文の別刷りは不要） 6. 渡仏承諾書 a) 大学の医局勤務者……………教授の承諾書 b) 病院または施設勤務者……………勤務している病院または施設の責任者の承諾書 （大学の医局人事により出張中の者は、教授の承諾書も要す。） 以上1. 以外の書式は自由であるが、すべてA4サイズに統一し、上記の順にならべて左上をホチキス で綴じること。また、コピーを27部を同封すること。
5) 選考方法	1. 第1次審査は書類選考とする。書類審査の結果は2023年8月上旬に個別に連絡する。 2. 書類選考に合格したものには2023年9月に面接を行う予定である。面接の時間は個別に通知する。 3. 可否は2023年9月下旬に通知する。 4. 合格者は後日改めて仏文または英文の履歴書等、フランスでの研修に必要な書類が求められる。
6) 申請締め切り	2023年7月31日必着
7) 申し込み先	日仏整形外科学会事務局 〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町 滋賀医科大学整形外科学講座内 Tel (077) 548-2252 Fax (077) 548-2254 日仏整形外科学会 係 安藤厚生

フランス人整形外科医 受け入れのお願い

本年度も日仏整形外科学会とフランス整形外科学会（SOFECOT）との間で、青年整形外科医の交換研修を
実施いたします。

受け入れ期間は原則として3ヶ月間ですが、1ヶ月でも2ヶ月でも結構ですので、是非会員の先生方のおられ
る施設で、フランス人整形外科医の研修を受け入れて頂きたくお願い申し上げます。

来日するフランス人医師は、英語を話せることが条件となっております。なお、日仏間の旅費はSOFECOT
が支給いたします。フランス人医師の受け入れに関して、ご興味やご質問がございましたら、下記までご連絡
いただけたら幸いです。

これまでにフランスから交換研修医として来られた先生方と研修施設			
年度	氏名(研修病院名)	年度	氏名(研修病院名)
1991	Philippe LIVERNEAUX (京都府立医科大学・広島大学)	2000	Olivier CHARROIS (京都市立病院)
1991	Luis Michel COLLET (大阪医科大学・滋賀小児センター・福岡こ ども病院)	2001	Laurent JACQUOT (福岡整形外科病院・慶応義塾大学・高岡整 志会病院)
1992	Frederic DUBRANA (福岡整形外科病院・九州大学)	2001	Alexandre ROCHWERGER (大阪医科大学・山形大学)
1992	Marc CHASSARD (慶応義塾大学・東海大学・札幌医科大学)	2004	Brice ILHARRBORDE (総合せき損センター・大阪市立大学)
1994	Philippe WICART (山口大学・金沢大学)	2007	Damien BREITEL (総合せき損センター・奈良県立医科大学)
1994	Philippe RENAUX (滋賀医科大学・岡山大学)	2007	Sybille FACCA (弘前大学・山形大学・京都府立医科大学・ 広島大学)
1995	Michel NINOU (大阪医科大学・新潟手の外科研究所・広島大学)	2008	Thomas APARD (山形大学・大阪府立母子保健総合医療センター)
1997	Bernardo Vargas BARRETO (国立小児病院・岡山大学・国立大阪病院)	2009	François LINTZ (京都市立大学)
1997	Sylvie MERCIER (大阪医科大学)	2012	Chihab TALEB (広島大学・山形大学・弘前大学・帝京大学・ 順天堂大学・順天堂静岡病院)
1998	Jérôme COTTALORDA (大阪医科大学・福岡県立粕屋新光園)		
1999	Olivier CHARROIS (滋賀医科大学・京都市立病院)		
1999	Eric HAVET (滋賀医科大学)		

日仏整形外科学会 会長 金子 和夫
日仏整形外科学会 書記長 本間 康弘
連絡先：順天堂大学 整形外科・スポーツ診療科

〒113-8421 東京都文京区本郷2-1-1
TEL:03-3813-3111
yhomma@juntendo.ac.jp

第20回日仏整形外科学会 開催のご案内

(20ème Réunion de la Société Franco-Japonaise d'Orthopédie)

【第20回日仏整形外科学会(SOFJO)開催のご案内】

19世紀以来、絹織物を介してフランスと歴史的繋がり深いこの横浜の地に皆様をお招きすることを楽しみに、あくまでも現地開催にこだわり準備を進めております。本学会員の皆様には久しぶりのAmis (友人)、Collègues (同僚) とのface to faceでの有意義な時間をお楽しみいただきたいと思います。また、日本整形外科の将来を担う若手の先生方に対しては、フランスをはじめとするヨーロッパ留学への窓口として本学会を利用していただくべく、フランスでの交換研修を体感した日仏整形外科学会メンバーのナマの声が聞ける企画も準備しております。

記

【会 期】2023年7月8日(土)

【会 場】ホテルニューグランド(横浜・山下町)

【会 長】柁原 俊久(横浜南共済病院整形外科) 【共同会長】稲垣 克記(昭和大学医学部整形外科学講座)

招待講演

- 1.「Bone lengthening and deformity correction with motorized intramedullary nail」
小児整形外科：Pr.Franck Accadbled (Toulouse , France)
- 2.「Dual mobility concept for total hip arthroplasty: what a hip surgeon should know」
人工股関節：Pr.Olivier GUYEN (Lausanne, Switzerland)
- 3.「From GEAP to IWAS what an incredible story」
手関節鏡：Pr.Michel LEVADOUX (Toulon, France)

ランチョンセミナー

「コンピューター技術を応用した股関節手術の進歩」 稲葉 裕(横浜市立大学整形外科)

教育研修講演

- 1.「首下り症候群の病態と治療」 工藤 理史(昭和大学医学部整形外科学講座)
- 2.「骨軟部腫瘍患者に対するリハビリテーション処方のコツとヒント」
小山内 俊久(医療法人社団未来 K&Aクリニック／前 北海道がんセンターリハビリテーション科)

特別講演 「フランスのワインと食文化から学ぶロコモ・フレイル対策」

- 1.「Petits plaisirs フランス人の長寿の秘訣」 水野 直子(市立豊中病院)
- 2.「Bonjour!! Cava, ABC and Marriage」 青木 清(旭川荘療育・医療センター)

シンポジウム 「我が国におけるリバースショルダーの現状」

【募集演題】一般演題：整形外科関連のすべての分野から幅広く募集します
詳しくは右記ホームページをご覧ください (<https://www.knt.co.jp/ec/2023/20th-sofjo>)

第17回日仏整形外科合同会議 開催のご案内

(17ème R'union de l'Association France-Japon d'Orthopédie, AFJO)

Reims (ランス) はフランス北東部にあるシャンパーニュアルデンヌ地方の中心都市であり、パリからはTGVで45分程度と日帰りできる距離にあります。街を歩けば世界遺産に登録されている4つの建築群(ジャンヌ=ダルクゆかりのノートルダム大聖堂、タウ宮殿、サン・レミ大聖堂、サン・レミ博物館)があります。そして何と言ってもここはシャンパンの聖地であり、個性豊かな数々の有名なシャンパーニュメゾンが世界中の人々を魅了しています。詳細が決まり次第、ホームページでお知らせします。たくさんの先生方のご参加をお待ちしております。

【会 長】Prof. Philippe HERNIGOU (Paris) 【開催地】Reims

【会 期】2024年(詳細未定)





仏日・日仏整形外科学用語集

仏日整形外科用語集は森崎直木先生が編集を行われ、1989年に第1版が文光堂から出版されました。その後、1991年に改訂版が出版されましたが、森崎直木先生が亡くなられて以降、改訂されることなく現在に至りました。フランスの整形外科を知るためにはどうしてもフランス語の論文を読む必要がありますので、森崎先生の仏日整形外科用語集は非常に有用な辞書でした。しかし、医学の進歩に用語集も追いついて行く必要があると考え、日仏整形外科学会が中心となってその後の時代に応じて出現した新語を大幅に追加して新しい用語集の編集を行なってまいりました。最終的には単語数は仏日がおおよそ7000語、日仏はおおよそ6200語となりました。編集にあたりましては、日本整形外科学会学術用語委員会から綿密な指導をいただき、また最後には診断と治療社編集部のみなさんの度重なる校正を受けて2013年5月に出版の暁となりました。

購入希望がありましたら事務局までご連絡下さい。診断と治療社のホームページからでも購入していただけます。また、会員の方は学会ホームページからダウンロードもできます。是非ご活用下さい。



日仏整形外科学会のインターネットホームページのアドレスは

<http://www.sofjo.gr.jp/>

です。
是非のぞいてみてください。

- ・新着／NEWS
- ・沿革
- ・活動内容
 - 入会のご案内
- ・役員紹介
- ・共同研究
- ・交換研修
 - 交換研修帰朝報告
- ・会誌INFOS
- ・仏日・日仏整形外科用語集
- ・日仏整形外科協議会（AFJO）
- ・AFJO（English）
- ・関連リンク集

2021年度会計報告

歳入の部	(単位:円)
会員年会費	1,556,000
用語集販売	0
企業寄附	300,000
第19回日仏整形外科学会より寄附	500,000
広告料	430,000
預金利息	12
前年度繰越金	3,204,199
計	5,990,211

2022年度事業費予算編成

歳入の部	(単位:円)
一般会員年会費	1,528,000
用語集販売	3,600
企業寄附	1,000,000
会員寄附	0
広告料	500,000
預金利息	3
前年度繰越金	4,814,624
計	7,846,227

歳出の部	(単位:円)
日本人交換整形外科医奨学金（1名） 渡航費+滞在費（一部）	100,000
フランス人交換整形外科医奨学金（0名）	0
SOFJO/AFJO開催関係費	0
日仏整形外科学会関連事業（表彰など）	0
日仏共同研究、研究助成金	0
インターネットホームページ維持管理費	33,691
日仏整形外科学会事務局費	
通信費	111,606
事務費	29,150
アルバイト代	192,000
会議費	7,950
旅費・交通費	0
印刷費	694,100
雑費	7,090
出金小計	1,175,587
次年度繰越金	4,814,624
計	5,990,211

歳出の部	(単位:円)
日本人交換整形外科医奨学金 渡航費+滞在費（一部）100,000×3名	300,000
フランス人交換整形外科医奨学金 滞在費（2ヶ月）+交通費 100,000×2名	200,000
SOFJO/AFJO開催関係費	1,000,000
日仏整形外科学会関連事業（表彰など）	0
日仏共同研究、研究助成	200,000
インターネットホームページ維持管理費	350,000
日仏整形外科学会事務局費	
通信費	120,000
事務費	30,000
アルバイト代	300,000
会議費	90,000
旅費・交通費	360,000
印刷費	950,000
予備費	30,000
出金小計	3,930,000
次年度繰越金	3,916,227
計	7,846,227



骨粗鬆症治療剤 薬価基準収載

オスタバロ®皮下注カートリッジ1.5mg

OSTABALO® Subcutaneous Injection Cart **1.5mg** アバロパラチド酢酸塩注射剤

【処方箋医薬品】注) 注意一 医師等の処方箋により使用すること

効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む注意事項等情報等については電子添文をご参照ください。

製造販売元

帝人ファーマ株式会社

東京都千代田区霞が関3丁目2番1号 ☎0120-189-315

文献請求先及び問い合わせ先：メディカル情報グループ

OSC029-DP-2211
2022年11月作成

THE NEW VALUE FRONTIER

KYOCERA

Initia®
Hip System

SQRUM シェル 【医療機器承認番号：22500BZX00323000】
Aquala ライナー 【医療機器承認番号：22300BZX00234000】
BIOCERAM AZUL ヘッド 【医療機器承認番号：22600BZX00510000】
Initia ステム 【医療機器承認番号：22800BZX00145000】

「Initia」は京セラ株式会社の登録商標です。

京セラ株式会社 メディカル事業部 本社 東京都伏見区竹田鳥羽殿町6番地 〒612-8501 Tel.075-778-1980
東京事業所 東京都品川区東品川3丁目32-42 I・Sビル 〒140-8810 Tel.03-5782-7006

札幌営業所 Tel.011-280-6020 大宮第2営業所 Tel.048-640-7779 大阪営業所 Tel.06-6350-1017 広島営業所 Tel.082-568-8538
東北営業所 Tel.022-216-5176 名古屋営業所 Tel.052-930-1481 岡山営業所 Tel.086-803-3620 九州営業所 Tel.092-452-8140

www.kyocera.co.jp/prdct/medical/index.html

© 2017 KYOCERA Corporation

CORAIL® HIP SYSTEM

The science of simplicity

CORAIL®
HIP SYSTEM

depuysynthes.jp 製造販売元：ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 デピュシネセス事業本部 ジョイント リコンストラクション ビジネスユニット 〒101-0065 東京都千代田区西神田 3 丁目 5 番 2 号
販売名：Corail AMT ステム / 承認番号：224008ZX00015000 / 販売名：BIOLOX delta セラミックヘッド (CERAMAX) / 承認番号：222008ZX00971000
販売名：ピナクル マラソンポリライナー / 承認番号：221008ZX01026000 / 販売名：ピナクル Porocoat / 承認番号：222008ZX00779000 / ©J&J 2020 • 135529-200326

Introducing

ZBEdge™

by  ZIMMER BIOMET

**Purpose Built.
Seamless Integration.
Optimized Care.**

デジタルデバイスとロボットを融合させたヘルスケアテクノロジーが
臨床結果改善の為の実用的な情報を提供します。

販売名：ROSA Recon ロボットシステム
医療機器製造販売承認番号：30200BZX00203000

本資料は、医療関係者を対象としたものです。それ以外の方への配布は禁止されています。Zimmer Biometは医療行為を実施しません。適応症、禁忌、警告については、添付文書を参照するか、または最寄りの代理店にお問い合わせください。また、その他の製品情報については、<https://www.zimmerbiomet.com/ja>をご覧ください。各国の製品認可を確認し、製品固有の使用説明書を参照してください。mymobilityを使用するには、互換性のあるスマートフォンが必要となります。HoloLensは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標です。©2022 Zimmer Biomet

ジンマー バイオメット <https://www.zimmerbiomet.com/ja>

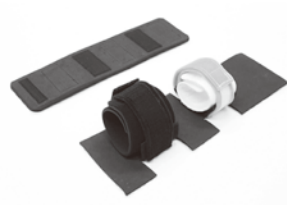
本社 〒105-0011 東京都港区芝公園二丁目 11 番 1 号 住友不動産芝公園タワー 15 階
Tel. 03-6402-6600 (代)

 ZIMMER BIOMET

術中の下位頸椎のレントゲン撮影をサポート Upper Limb Traction Controller (ULTC) 上肢体側固定補助器具



- ① 下位頸椎をきれいに撮影できます
腕を下方に引っ張って固定し、肩や鎖骨が写り込みません。
- ② 省人化
上肢を引っ張るスタッフがいません。
- ③ 簡単装着
だれでも簡単に装着できます。
- ④ 3つのサイズで誰でもカバー
ベルトは3サイズあるので、どんな手首・上腕でもぴったり装着できます。
- ⑤ 大きな人でも大丈夫
大きな患者様でも別売りのベースプレートで牽引スペースが広がります。



滋賀医科大学医学部附属病院 整形外科講座
准教授 森 幹士医師 監修



ISO 9001 認証取得企業

必要とされるひとに 必要とされるものを 必要とときに...



株式会社 洛北義肢

〒603-8487 京都市北区大北山原谷町22-16
TEL 075-462-0195 FAX 075-463-2140
URL <http://www.rakuhokugoshi.co.jp/>



株式会社 リハビリテック

〒603-8487 京都市北区大北山原谷町22-16
TEL 075-464-0034 FAX 075-464-0044
E-mail info@rehabitech.co.jp URL <http://www.rehabitech.co.jp/>

RehabiTech
REHABILITATION TECHNOLOGICAL CORPORATION

It's all about the customer.

全てはお客様のために。

増田医科器械は、先進のテクノロジーと熱いハートで、
医療の現場や研究現場のお客様、そして患者様の
お役に立つことが使命であり喜びです。



先端医療のバイオニクス。

株式会社 増田医科器械

〒612-8443 京都市伏見区竹田薬屋町50
Tel.075-623-7111 Fax.075-623-7131

www.masudaika.co.jp

まだないくすりを 創るしごと。

世界には、まだ治せない病気があります。

世界には、まだ治せない病気とたたかう人たちがいます。

明日を変える一錠を創る。

アステラスの、しごとです。

明日は変えられる。



アステラス製薬株式会社

www.astellas.com/jp/

医療を支える企業としての使命感を忘れずに 今までもこれからも...いつも生命のそばに



<http://www.ishiguro-medical.jp/>
石黒メディカルシステム株式会社

京都本社：〒612-8412 京都市伏見区竹田中川原町381番地
TEL 075-641-1496 FAX 075-641-0010

大阪支店：〒569-1145 大阪府高槻市富田丘町9番5号
TEL 072-696-1496 FAX 072-696-1961

東大阪支店：〒577-0062 大阪府東大阪市森河内東1丁目26番19号
TEL 06-4308-5710 FAX 06-4308-5772

神戸支店：〒651-2113 兵庫県神戸市西区伊川谷町有瀬977番地1
TEL 078-975-3015 FAX 078-975-3016

滋賀支店：〒524-0041 滋賀県守山市勝部6丁目4番36号
TEL 077-582-7770 FAX 077-582-7796

奈良営業所：〒639-1124 奈良県大和郡山市馬司町130番地
TEL 0743-23-1496 FAX 0743-23-1497

京浜営業所：〒210-0856 神奈川県川崎市川崎区田辺新田1-1
TEL 044-328-6270 FAX 044-333-0121

病 医 院 設 備
医 療 機 器
介 護 用 品
病 医 院 の 開 業 支 援